

ヘルスケア業界ミニブック

－患者構造の変化と医療費動向－

2020 年 3 月



はじめに

急速に超高齢化が進むなか、我が国のヘルスケア業界では様々な課題が顕在化しています。今年度発刊した「ヘルスケア業界データブック（日本医療企画・刊）」でも示していますが、医療経営という観点では「病院収入が前年比で微減する」状況が見受けられました。

そこで 2010 年来毎年刊行させて頂いているこの「ヘルスケア業界ミニブック」では、「収入減の一因には患者構造の変化があるのではないか」という予測の下、幾つかの分析を試みることと致しました。同時に、こうした医療機関の収益動向は全体の医療費動向とも表裏一体であることから、過去 10 年程度の医療費動向についてもあわせて考察することと致しました。

まず「患者構造の変化」においては、「患者調査」（厚生労働省）をベースに人口動態・患者数推移・受療率推移などを複合的に見つつ、近時の構造変化を探っております（あわせて疾病構造の変化や二次医療圏毎の患者流出入についてもトレースしています）。一方、「医療費動向」という観点では、「医療費全体」「調剤医療費」双方に着目しつつ、施設毎・都道府県毎の動きなどを考察しています。

また、都道府県毎にその変化の方向性は異なることから、出来る限り、都道府県毎の変化が俯瞰出来るよう情報整理することを心がけました。

本書を監修する㈱日本政策投資銀行及び㈱日本経済研究所は、医療・介護分野に関して、従来から各種投融資業務、コンサルティング業務に加えて、上述の「ヘルスケア業界データブック」や本書（「ヘルスケア業界ミニブック」）の発刊などの情報発信に取り組んできました。本書もその一環として刊行されるものであり、医療・介護関連産業に従事される皆様の業務やご議論をされる際の一助となれば幸いです。また、今後も皆様のご意見を頂戴しながら内容の改善・充実を図っていきたいと思います故、有益なご示唆を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

㈱日本政策投資銀行・㈱日本経済研究所 ヘルスケア業界研究チーム

ヘルスケア業界ミニブック
— 患者構造の変化と医療費動向 —

<目 次>

1 患者構造の変化	1
（１）入院・外来患者数の動向	1
（２）受療率の推移	8
（３）疾患動向の変化	14
（４）二次医療圏別の患者流出入	17
（５）秋田県における分析事例	20
（６）東京都における分析事例	25
（７）地域ごとの状況比較など	30
2 医療費動向から見る変化	31
（１）医療費全体の動向	31
（２）調剤費	37
（３）医療費の地域差分析	39

1 患者構造の変化

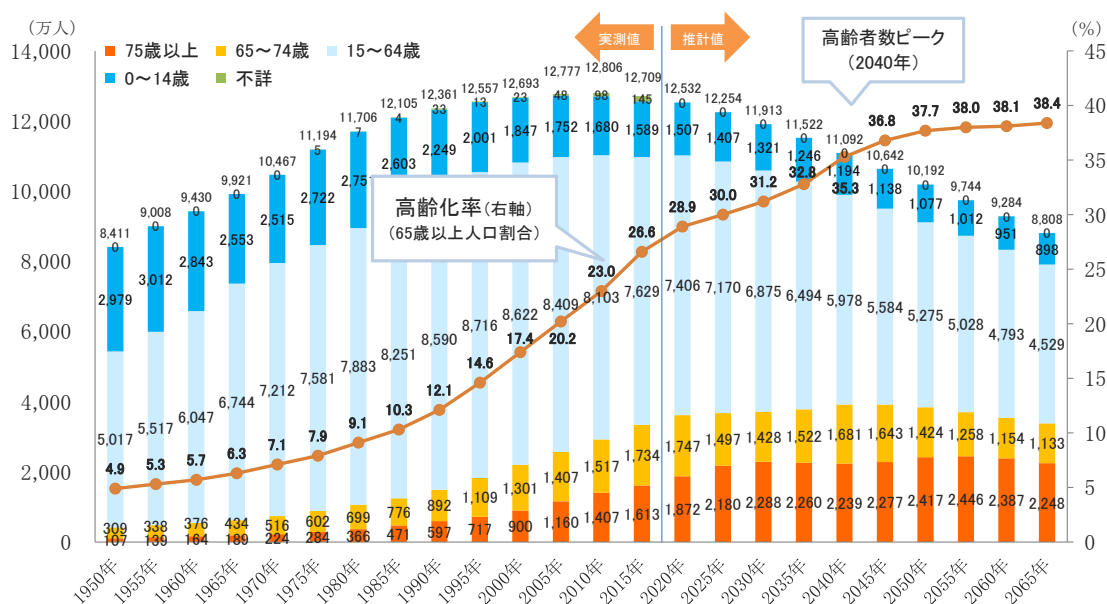
(1) 入院・外来患者数の動向

ア 人口推移（全国・都道府県別）

患者の構造をみる前に、全国及び都道府県における人口の推移をみていく。

急速に進む少子高齢化と人口減少により、全国における人口は 2010 年をピークとし、以降は減少傾向が予測される。

2020 年以降は推計値となるが、予測される高齢者数のピークは 2040 年となっている。また、15～64 歳における減少数が最も大きくなっており、生産年齢層の縮小が大きな問題となっている。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」を基に加工

人口の推移を都道府県別にみると、1996 年から 2017 年の増減率は 0.7%となっており、全国的には大きな変化はないが、首都圏と地方都市での増減の格差は拡大している。

■ 人口の推移（全体・都道府県別）

（単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	125,864	126,686	127,435	127,768	127,692	127,799	127,083	126,706 (0.7%)
01 北 海 道	5,699	5,695	5,670	5,628	5,535	5,486	5,400	5,320 (-6.7%)
02 青 森	1,483	1,475	1,469	1,437	1,392	1,363	1,321	1,278 (-13.8%)
03 岩 手	1,420	1,414	1,407	1,385	1,352	1,314	1,284	1,255 (-11.6%)
04 宮 城	2,338	2,360	2,371	2,360	2,340	2,327	2,328	2,323 (-0.6%)
05 秋 田	1,210	1,196	1,176	1,146	1,108	1,075	1,037	996 (-17.7%)
06 山 形	1,256	1,250	1,235	1,216	1,188	1,161	1,131	1,102 (-12.3%)
07 福 島	2,136	2,135	2,120	2,091	2,052	1,990	1,935	1,882 (-11.9%)
08 茨 城	2,972	3,002	2,990	2,975	2,964	2,958	2,919	2,892 (-2.7%)
09 栃 木	1,993	2,012	2,010	2,017	2,011	2,000	1,980	1,957 (-1.8%)
10 群 馬	2,011	2,030	2,032	2,024	2,012	2,001	1,976	1,960 (-2.5%)
11 埼 玉	6,809	6,929	7,001	7,054	7,113	7,207	7,239	7,310 (7.4%)
12 千 葉	5,824	5,920	5,994	6,056	6,122	6,214	6,197	6,246 (7.2%)
13 東 京	11,772	11,837	12,219	12,577	12,838	13,196	13,390	13,724 (16.6%)
14 神 奈 川	8,282	8,443	8,625	8,792	8,917	9,058	9,096	9,159 (10.6%)
15 新 潟	2,492	2,490	2,465	2,431	2,391	2,362	2,313	2,267 (-9.0%)
16 富 山	1,126	1,125	1,119	1,112	1,101	1,088	1,070	1,056 (-6.2%)
17 石 川	1,182	1,186	1,180	1,174	1,168	1,166	1,156	1,147 (-3.0%)
18 福 井	829	831	828	822	812	803	790	779 (-6.0%)
19 山 梨	886	893	889	885	871	857	841	823 (-7.1%)
20 長 野	2,206	2,223	2,217	2,196	2,171	2,142	2,109	2,076 (-5.9%)
21 岐 阜	2,107	2,118	2,111	2,107	2,100	2,071	2,041	2,008 (-4.7%)
22 静 岡	3,749	3,776	3,786	3,792	3,800	3,749	3,705	3,675 (-2.0%)
23 愛 知	6,897	7,008	7,123	7,255	7,403	7,416	7,455	7,525 (9.1%)
24 三 重	1,849	1,864	1,861	1,867	1,875	1,847	1,825	1,800 (-2.7%)
25 滋 賀	1,298	1,333	1,359	1,380	1,402	1,414	1,416	1,413 (8.9%)
26 京 都	2,631	2,633	2,642	2,648	2,629	2,632	2,610	2,599 (-1.2%)
27 大 阪	8,804	8,801	8,815	8,817	8,806	8,861	8,836	8,823 (0.2%)
28 兵 庫	5,410	5,484	5,578	5,591	5,586	5,582	5,541	5,503 (1.7%)
29 奈 良	1,439	1,449	1,438	1,421	1,404	1,396	1,376	1,348 (-6.3%)
30 和 歌 山	1,080	1,074	1,061	1,036	1,012	995	971	945 (-12.5%)
31 鳥 取	614	614	612	607	595	585	574	565 (-8.0%)
32 島 根	770	764	757	742	725	712	697	685 (-11.0%)
33 岡 山	1,953	1,959	1,953	1,957	1,948	1,941	1,924	1,907 (-2.4%)
34 広 島	2,882	2,883	2,878	2,877	2,869	2,855	2,833	2,829 (-1.8%)
35 山 口	1,551	1,538	1,518	1,493	1,463	1,442	1,408	1,383 (-10.8%)
36 徳 島	832	830	820	810	794	780	764	743 (-10.7%)
37 香 川	1,028	1,029	1,021	1,012	1,003	992	981	967 (-5.9%)
38 愛 媛	1,505	1,497	1,486	1,468	1,444	1,423	1,395	1,364 (-9.4%)
39 高 知	815	810	810	796	773	758	738	714 (-12.4%)
40 福 岡	4,952	5,000	5,043	5,050	5,054	5,079	5,091	5,107 (3.1%)
41 佐 賀	886	884	874	866	856	847	835	824 (-7.0%)
42 長 崎	1,541	1,525	1,507	1,479	1,440	1,417	1,386	1,354 (-12.1%)
43 熊 本	1,862	1,865	1,858	1,842	1,821	1,813	1,794	1,765 (-5.2%)
44 大 分	1,230	1,226	1,219	1,210	1,200	1,191	1,171	1,152 (-6.3%)
45 宮 崎	1,177	1,176	1,167	1,153	1,136	1,131	1,114	1,089 (-7.5%)
46 鹿 児 島	1,793	1,788	1,779	1,753	1,717	1,699	1,668	1,626 (-9.3%)
47 沖 縄	1,283	1,312	1,339	1,362	1,376	1,401	1,421	1,443 (12.5%)

出典：総務省「人口推計」（1996 年～2017 年）

また、65歳以下の人口で1996年と2017年を比較すると、東京都と沖縄県以外は全て人口が減っているという結果であった。全国で年少人口や生産年齢に該当する人口が大幅に減少しているのがこの数値からも把握できる。

減少率が特に高い地域としては、最も減少している秋田県や2番目に減少している青森県などがある東北地方が挙げられる。

■ 人口の推移（65歳以下・都道府県別）

（単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	106,847	105,500	103,808	102,007	99,476	98,047	94,083	91,554 (-14.3%)
01 北 海 道	4,815	4,700	4,559	4,421	4,230	4,105	3,882	3,687 (-23.4%)
02 青 森	1,236	1,201	1,163	1,110	1,052	1,008	939	872 (-29.4%)
03 岩 手	1,155	1,121	1,086	1,044	997	956	905	855 (-26.0%)
04 宮 城	1,986	1,967	1,935	1,889	1,837	1,806	1,755	1,692 (-14.8%)
05 秋 田	963	925	882	838	793	755	699	642 (-33.3%)
06 山 形	998	971	938	906	872	840	792	747 (-25.2%)
07 福 島	1,751	1,714	1,667	1,617	1,556	1,488	1,398	1,313 (-25.0%)
08 茨 城	2,537	2,524	2,463	2,398	2,332	2,282	2,165	2,074 (-18.2%)
09 栃 木	1,688	1,677	1,645	1,625	1,587	1,553	1,482	1,421 (-15.8%)
10 群 馬	1,685	1,671	1,643	1,607	1,560	1,522	1,447	1,392 (-17.4%)
11 埼 玉	6,091	6,094	6,005	5,894	5,752	5,701	5,502	5,409 (-11.2%)
12 千 葉	5,140	5,134	5,062	4,992	4,889	4,844	4,626	4,554 (-11.4%)
13 東 京	10,171	10,029	10,133	10,252	10,240	10,483	10,379	10,563 (3.9%)
14 神 奈 川	7,325	7,330	7,326	7,305	7,202	7,193	6,981	6,885 (-6.0%)
15 新 潟	2,020	1,976	1,911	1,849	1,781	1,738	1,641	1,557 (-22.9%)
16 富 山	917	898	873	854	824	801	752	722 (-21.3%)
17 石 川	984	971	948	928	900	888	843	816 (-17.1%)
18 福 井	677	665	649	636	615	601	569	547 (-19.2%)
19 山 梨	730	723	707	691	665	645	610	578 (-20.8%)
20 長 野	1,775	1,756	1,722	1,674	1,616	1,571	1,494	1,429 (-19.5%)
21 岐 阜	1,771	1,746	1,703	1,665	1,619	1,567	1,484	1,419 (-19.9%)
22 静 岡	3,171	3,128	3,073	3,013	2,940	2,846	2,707	2,607 (-17.8%)
23 愛 知	6,041	6,035	6,007	6,000	5,984	5,887	5,727	5,673 (-6.1%)
24 三 重	1,541	1,525	1,488	1,466	1,441	1,396	1,330	1,277 (-17.1%)
25 滋 賀	1,109	1,124	1,129	1,130	1,126	1,119	1,084	1,056 (-4.8%)
26 京 都	2,229	2,190	2,147	2,114	2,041	2,007	1,908	1,856 (-16.7%)
27 大 阪	7,707	7,555	7,373	7,172	6,938	6,848	6,568	6,425 (-16.6%)
28 兵 庫	4,615	4,588	4,565	4,478	4,354	4,278	4,081	3,944 (-14.5%)
29 奈 良	1,232	1,219	1,180	1,137	1,086	1,056	992	939 (-23.8%)
30 和 歌 山	878	856	824	786	747	721	675	641 (-27.0%)
31 鳥 取	493	482	471	461	444	430	407	390 (-20.9%)
32 島 根	598	578	560	541	517	505	475	455 (-23.9%)
33 岡 山	1,600	1,575	1,537	1,518	1,476	1,448	1,385	1,340 (-16.3%)
34 広 島	2,410	2,368	2,314	2,273	2,209	2,162	2,065	2,020 (-16.2%)
35 山 口	1,245	1,205	1,161	1,119	1,069	1,035	967	921 (-26.0%)
36 徳 島	669	651	631	613	587	568	533	503 (-24.8%)
37 香 川	834	819	796	777	754	733	695	666 (-20.1%)
38 愛 媛	1,217	1,183	1,151	1,115	1,074	1,041	980	926 (-23.9%)
39 高 知	642	624	611	589	559	538	500	469 (-26.9%)
40 福 岡	4,195	4,162	4,115	4,048	3,971	3,935	3,813	3,723 (-11.3%)
41 佐 賀	723	709	687	670	652	638	609	584 (-19.2%)
42 長 崎	1,260	1,218	1,177	1,130	1,077	1,046	986	930 (-26.2%)
43 熊 本	1,509	1,479	1,442	1,404	1,364	1,346	1,290	1,235 (-18.2%)
44 大 分	993	967	940	916	890	873	824	785 (-20.9%)
45 宮 崎	965	941	911	882	850	838	795	750 (-22.3%)
46 鹿 児 島	1,429	1,395	1,360	1,318	1,270	1,248	1,190	1,124 (-21.3%)
47 沖 縄	1,127	1,131	1,138	1,142	1,139	1,159	1,152	1,140 (1.2%)

出典：総務省「人口推計」（1996年～2017年）

65 歳以上の人口は、1996 年から 2017 年にかけて全ての都道府県で増加し、全国平均では 84.8%の増加となっている。

また、高齢化率をみると、最も高齢化が進んでいるのは秋田県、高知県、島根県という順であった（赤色の網掛け）。一方、高齢化率が低いのは、沖縄県、東京都、愛知県という順であった（青色の網掛け）。

■ 人口の推移（65 歳以上・都道府県別）

（単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	高齢化率 (2017年)
全 国	19,017	21,186	23,628	25,761	28,216	29,752	33,000	35,152 (84.8%)	27.7%
01 北 海 道	884	994	1,110	1,207	1,305	1,382	1,519	1,632 (84.6%)	30.7%
02 青 森	247	274	306	327	340	355	383	407 (64.8%)	31.8%
03 岩 手	265	293	321	341	355	358	380	400 (50.9%)	31.9%
04 宮 城	352	394	436	472	504	520	573	631 (79.3%)	27.2%
05 秋 田	247	271	295	308	315	319	339	354 (43.3%)	35.5%
06 山 形	258	279	297	310	317	321	338	355 (37.6%)	32.2%
07 福 島	385	421	452	475	496	502	537	569 (47.8%)	30.2%
08 茨 城	435	479	527	577	632	676	754	819 (88.3%)	28.3%
09 栃 木	304	335	365	392	424	447	498	536 (76.3%)	27.4%
10 群 馬	326	358	389	417	452	479	529	567 (73.9%)	28.9%
11 埼 玉	718	835	995	1,160	1,361	1,506	1,737	1,900 (164.6%)	26.0%
12 千 葉	684	786	933	1,064	1,233	1,370	1,571	1,692 (147.4%)	27.1%
13 東 京	1,601	1,808	2,085	2,325	2,599	2,713	3,011	3,160 (97.4%)	23.0%
14 神 奈 川	958	1,113	1,299	1,487	1,715	1,865	2,115	2,274 (137.4%)	24.8%
15 新 潟	472	514	554	582	611	624	672	709 (50.2%)	31.3%
16 富 山	209	228	246	259	278	287	318	334 (59.8%)	31.6%
17 石 川	198	215	232	246	267	279	313	331 (67.2%)	28.9%
18 福 井	152	166	179	186	197	202	220	232 (52.6%)	29.8%
19 山 梨	156	170	182	194	206	213	231	245 (57.1%)	29.8%
20 長 野	431	467	496	522	554	571	615	647 (50.1%)	31.2%
21 岐 阜	335	372	409	442	481	504	557	589 (75.8%)	29.3%
22 静 岡	578	648	714	780	860	903	998	1,069 (84.9%)	29.1%
23 愛 知	857	973	1,116	1,254	1,419	1,530	1,728	1,852 (116.1%)	24.6%
24 三 重	308	339	373	401	434	451	495	522 (69.5%)	29.0%
25 滋 賀	189	209	230	250	276	295	332	357 (88.9%)	25.3%
26 京 都	402	443	495	534	588	624	701	743 (84.8%)	28.6%
27 大 阪	1,097	1,247	1,442	1,645	1,868	2,012	2,267	2,399 (118.7%)	27.2%
28 兵 庫	795	896	1,012	1,113	1,233	1,304	1,460	1,558 (96.0%)	28.3%
29 奈 良	207	230	258	284	318	340	383	408 (97.1%)	30.3%
30 和 歌 山	202	218	237	250	264	274	296	304 (50.5%)	32.2%
31 鳥 取	122	132	141	146	152	155	167	175 (43.4%)	31.0%
32 島 根	172	186	197	201	207	207	221	230 (33.7%)	33.6%
33 岡 山	352	384	415	440	473	493	540	567 (61.1%)	29.7%
34 広 島	472	515	564	603	660	693	769	809 (71.4%)	28.6%
35 山 口	306	333	357	374	394	407	441	462 (51.0%)	33.4%
36 徳 島	163	178	189	197	207	212	230	241 (47.9%)	32.4%
37 香 川	193	210	225	236	249	258	286	301 (56.0%)	31.1%
38 愛 媛	288	314	336	352	370	382	415	437 (51.7%)	32.0%
39 高 知	173	186	199	206	215	220	237	244 (41.0%)	34.2%
40 福 岡	757	837	928	1,002	1,084	1,144	1,279	1,384 (82.8%)	27.1%
41 佐 賀	162	175	187	196	205	209	225	240 (48.1%)	29.1%
42 長 崎	282	307	330	349	363	371	401	424 (50.4%)	31.3%
43 熊 本	353	386	416	438	457	467	504	531 (50.4%)	30.1%
44 大 分	237	259	280	294	311	319	347	367 (54.9%)	31.9%
45 宮 崎	212	234	255	271	286	293	319	338 (59.4%)	31.0%
46 鹿 児 島	364	394	419	435	447	450	478	501 (37.6%)	30.8%
47 沖 縄	156	180	201	219	237	242	270	303 (94.2%)	21.0%

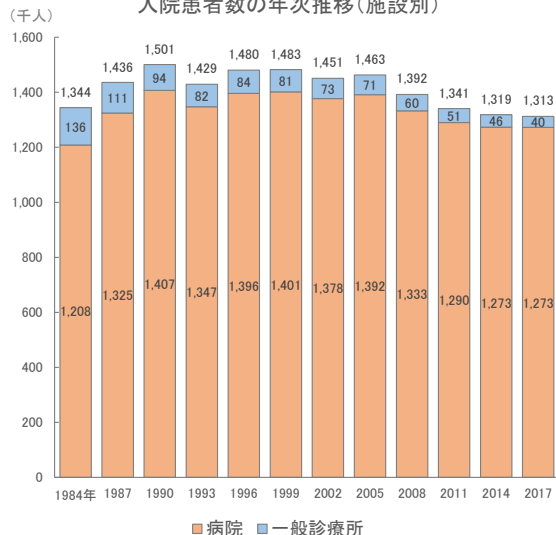
出典：総務省「人口推計」（1996 年～2017 年）

イ 全国の入院・外来患者数とその推移

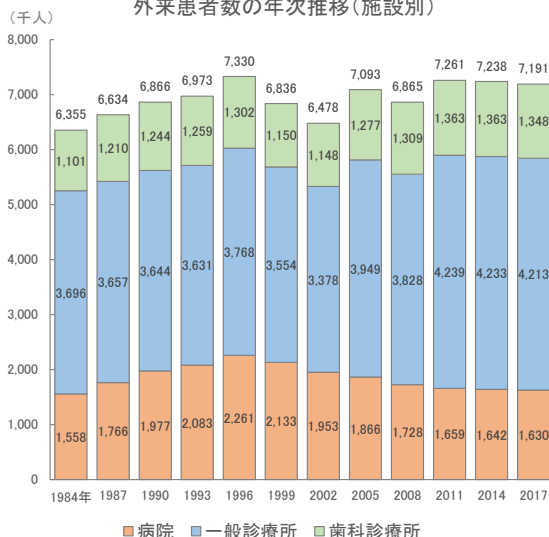
2017 年に全国の医療機関で受療した 1 日あたりの推計患者数は、入院 1,313 千人、外来 7,191 千人となっている。

また、推計患者数の年次推移をみると、入院では 2005 年から減少し、2011 年以降は横ばい傾向、外来でも同様に 2011 年からほぼ横ばいとなっている。年齢別にみると、1984 年以降、入院・外来ともに「0～14 歳」「15～34 歳」「35～64 歳」は減少傾向、「65 歳以上」は増加傾向となっている。

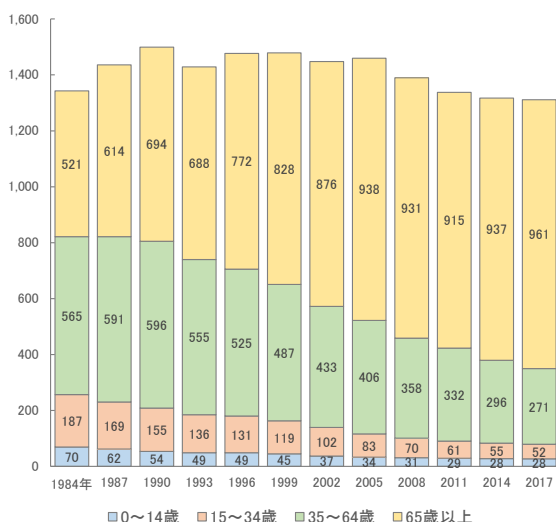
入院患者数の年次推移(施設別)



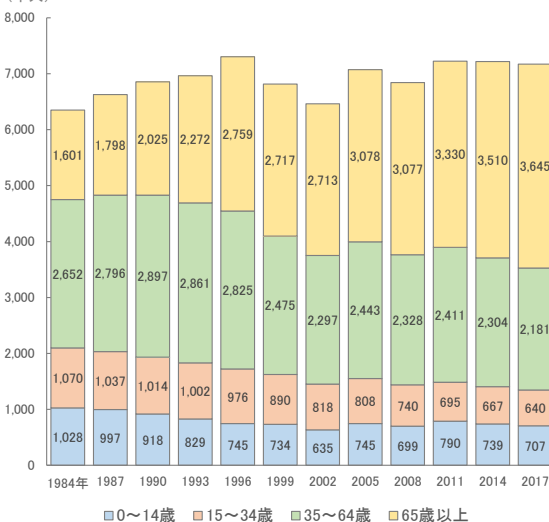
外来患者数の年次推移(施設別)



入院患者数の年次推移(年齢別)



外来患者数の年次推移(年齢別)



※ 患者調査において、2011 年の数値は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。以下、同様。

出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」(2019 年 3 月 1 日)

ウ 都道府県別の入院・外来患者数とその推移

以下は、厚生労働省「患者調査」を基に、1996年から2017年までの入院患者数の推移（1日あたり）をみたものである。1996年と2017年の2か年の入院患者数の増減率をみると、増加率が高い順に滋賀県6.1%、千葉県5.7%、奈良県1.5%となっている（青色の網掛け）。

反対に、減少率が高いのは、岩手県の▲32.8%、福島県の▲30.9%、青森県の▲27.6%などが挙げられる（赤色の網掛け）。

■ 入院患者数の推移（1日あたり・都道府県別）

（単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	1,480.5	1,482.6	1,451.0	1,462.8	1,392.4	1,341.0	1,318.8	1,312.6 (-11.3%)
01 北 海 道	98.5	98.7	96.0	94.2	87.0	85.7	78.6	80.3 (-18.5%)
02 青 森	19.6	19.4	17.9	18.1	16.8	15.8	14.8	14.2 (-27.6%)
03 岩 手	20.1	19.5	18.5	18.1	16.4	15.3	14.6	13.5 (-32.8%)
04 宮 城	22.7	23.9	22.4	23.3	22.9	18.8	21.3	20.0 (-11.9%)
05 秋 田	16.9	16.3	15.5	15.7	14.7	13.7	13.2	12.3 (-27.2%)
06 山 形	12.8	13.1	13.5	13.6	13.3	13.3	12.6	12.3 (-3.9%)
07 福 島	27.2	27.2	25.5	25.5	23.9	-	20.2	18.8 (-30.9%)
08 茨 城	27.6	28.2	27.4	28.1	26.6	26.4	25.4	25.6 (-7.2%)
09 栃 木	19.5	19.9	20.0	20.2	19.1	18.7	18.7	18.7 (-4.1%)
10 群 馬	20.4	22.0	22.7	22.1	21.6	21.2	20.2	19.9 (-2.5%)
11 埼 玉	52.6	51.3	52.9	54.1	52.3	54.3	51.1	53.2 (1.1%)
12 千 葉	45.8	45.9	47.3	48.7	47.5	48.1	47.6	48.4 (5.7%)
13 東 京	112.0	111.8	110.0	110.0	105.1	105.2	101.9	104.0 (-7.1%)
14 神 奈 川	64.9	64.0	64.2	64.8	61.2	59.8	61.1	62.7 (-3.4%)
15 新 潟	26.8	26.9	26.5	26.9	26.3	25.8	24.3	24.2 (-9.7%)
16 富 山	16.9	17.1	17.6	17.4	15.7	15.8	14.8	14.3 (-15.4%)
17 石 川	18.5	18.8	18.6	18.2	17.4	16.8	15.5	15.4 (-16.8%)
18 福 井	11.2	11.3	11.3	11.3	10.3	10.0	9.7	9.5 (-15.2%)
19 山 梨	8.5	9.3	9.3	9.9	9.0	8.7	8.3	8.6 (1.2%)
20 長 野	21.9	21.2	21.5	20.8	21.1	19.9	20.5	19.5 (-11.0%)
21 岐 阜	19.6	19.3	18.7	19.0	17.9	17.8	16.2	16.8 (-14.3%)
22 静 岡	33.8	34.2	34.5	34.3	33.6	32.5	31.6	31.8 (-5.9%)
23 愛 知	61.8	64.8	63.5	63.0	61.3	58.5	57.6	58.2 (-5.8%)
24 三 重	19.3	19.4	18.0	18.8	17.7	16.9	17.1	17.1 (-11.4%)
25 滋 賀	11.4	11.3	12.1	12.6	12.3	12.5	12.0	12.1 (6.1%)
26 京 都	30.0	32.6	31.6	31.8	30.4	29.9	28.9	28.7 (-4.3%)
27 大 阪	94.3	100.3	93.9	97.7	93.0	92.0	91.2	91.2 (-3.3%)
28 兵 庫	55.6	55.0	55.6	56.8	54.2	53.1	53.3	55.5 (-0.2%)
29 奈 良	13.3	13.3	13.3	14.2	13.5	12.9	13.2	13.5 (1.5%)
30 和 歌 山	13.7	13.0	12.3	12.6	12.4	12.4	10.8	11.2 (-18.2%)
31 鳥 取	7.6	8.0	8.4	8.6	7.9	7.8	7.5	7.5 (-1.3%)
32 島 根	11.2	10.9	10.8	10.8	9.9	9.7	9.3	8.8 (-21.4%)
33 岡 山	26.7	27.2	26.9	25.7	25.5	24.5	23.2	22.9 (-14.2%)
34 広 島	39.3	39.2	39.2	39.8	37.0	36.2	35.1	33.9 (-13.7%)
35 山 口	27.4	28.2	27.6	27.1	26.4	25.3	24.4	23.2 (-15.3%)
36 徳 島	16.4	16.2	15.1	15.0	14.3	13.7	13.4	12.2 (-25.6%)
37 香 川	16.0	16.1	15.7	15.6	13.9	13.7	12.9	12.2 (-23.8%)
38 愛 媛	24.0	23.8	22.9	22.9	21.1	20.2	19.5	18.5 (-22.9%)
39 高 知	19.5	18.6	18.1	17.9	17.1	16.7	16.3	15.3 (-21.5%)
40 福 岡	86.5	86.7	81.9	84.0	78.8	80.8	75.9	75.7 (-12.5%)
41 佐 賀	16.0	15.5	15.3	15.6	15.2	14.0	14.2	13.7 (-14.4%)
42 長 崎	31.4	29.5	27.3	27.8	26.2	26.0	24.6	23.8 (-24.2%)
43 熊 本	37.9	37.3	36.5	35.9	34.0	34.1	32.3	30.8 (-18.7%)
44 大 分	20.7	21.7	21.2	21.8	20.8	19.4	18.9	19.0 (-8.2%)
45 宮 崎	19.6	20.3	19.0	19.0	19.6	17.4	16.8	16.4 (-16.3%)
46 鹿 児 島	36.2	35.8	35.2	35.0	33.2	32.6	31.2	30.2 (-16.6%)
47 沖 縄	18.5	18.7	17.9	18.9	17.2	17.3	17.2	17.2 (-7.0%)

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

続いて、外来患者数についても同様に、1996 年と 2017 年の 2 か年の外来患者数の増減率をみると、増加率が高い順に沖縄県 46.7%、東京都 17.7%、滋賀県 16.9%となっている（青色の網掛け）。

また反対に、減少率が高いのは、広島県の▲24.2%、秋田県の▲23.6%、高知県の▲21.9%などである（赤色の網掛け）。

■ 外来患者数の推移（1 日あたり・都道府県別）

（単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	7,329.8	6,835.9	6,478.0	7,092.4	6,865.0	7,260.5	7,238.4	7,191.0 (-1.9%)
01 北 海 道	347.7	316.6	304.1	335.2	293.4	292.9	275.1	275.1 (-20.9%)
02 青 森	96.8	93.2	88.6	88.4	82.8	86.7	77.7	80.6 (-16.7%)
03 岩 手	86.6	82.2	69.3	78.7	75.6	72.6	70.9	70.1 (-19.1%)
04 宮 城	135.2	118.7	120.2	126.1	111.5	115.4	133.6	140.7 (4.1%)
05 秋 田	76.8	69.7	70.7	71.2	61.4	61.9	56.9	58.7 (-23.6%)
06 山 形	77.7	74.8	65.3	74.0	69.2	71.6	71.7	66.0 (-15.1%)
07 福 島	121.5	118.0	106.3	112.2	102.4	-	106.6	106.6 (-12.3%)
08 茨 城	126.9	123.4	110.2	137.3	133.7	148.7	153.5	147.0 (15.8%)
09 栃 木	110.4	105.6	94.4	107.9	109.5	114.7	109.3	114.8 (4.0%)
10 群 馬	108.0	96.2	97.4	111.6	102.8	113.9	109.0	111.1 (2.9%)
11 埼 玉	312.1	291.7	280.6	310.4	304.6	362.8	339.0	359.0 (15.0%)
12 千 葉	273.5	249.4	260.2	272.4	306.7	294.8	289.9	316.5 (15.7%)
13 東 京	688.8	744.5	720.7	753.7	707.4	880.4	841.3	810.4 (17.7%)
14 神 奈 川	439.6	392.9	349.1	394.8	385.7	464.4	506.6	482.7 (9.8%)
15 新 潟	151.8	141.8	130.6	122.9	128.8	129.1	132.4	119.6 (-21.2%)
16 富 山	68.3	62.3	59.5	57.9	54.5	60.4	53.7	57.7 (-15.5%)
17 石 川	69.1	69.7	61.7	66.2	60.0	61.5	57.6	59.7 (-13.6%)
18 福 井	45.5	44.4	41.0	45.0	40.2	43.7	41.2	42.4 (-6.8%)
19 山 梨	44.7	39.1	35.7	43.2	42.8	48.2	45.5	44.7 (0.0%)
20 長 野	117.9	104.3	101.1	112.2	112.8	111.1	109.1	106.0 (-10.1%)
21 岐 阜	114.8	109.9	110.1	117.7	118.6	125.5	123.5	122.3 (6.5%)
22 静 岡	203.1	179.4	187.8	184.8	202.4	189.2	192.9	187.8 (-7.5%)
23 愛 知	390.0	372.7	334.2	387.1	426.0	441.9	426.3	452.8 (16.1%)
24 三 重	97.1	95.2	89.6	108.2	92.4	110.3	117.8	108.8 (12.0%)
25 滋 賀	63.4	56.7	54.7	71.6	68.1	77.1	71.8	74.1 (16.9%)
26 京 都	161.9	141.6	130.5	147.0	139.5	142.2	133.1	130.7 (-19.3%)
27 大 阪	567.5	527.7	516.5	515.2	502.8	521.1	540.3	519.3 (-8.5%)
28 兵 庫	348.5	280.4	282.2	344.3	318.1	336.1	333.9	322.7 (-7.4%)
29 奈 良	67.5	64.0	61.3	72.5	70.5	62.6	71.5	66.3 (-1.8%)
30 和 歌 山	68.4	65.9	53.5	69.9	61.4	66.0	64.7	61.9 (-9.5%)
31 鳥 取	37.6	31.5	30.6	35.3	33.4	35.8	35.3	33.2 (-11.7%)
32 島 根	50.1	46.1	42.6	45.1	43.8	42.8	41.9	43.0 (-14.2%)
33 岡 山	120.8	108.8	100.8	120.5	106.3	123.3	109.4	112.2 (-7.1%)
34 広 島	207.8	189.4	182.8	193.8	184.0	188.4	179.4	157.5 (-24.2%)
35 山 口	100.3	90.9	78.6	98.4	87.1	92.6	91.8	90.6 (-9.7%)
36 徳 島	54.7	49.6	45.3	54.5	50.6	51.3	48.5	45.7 (-16.5%)
37 香 川	65.8	63.2	60.3	67.9	66.6	64.4	64.6	67.8 (3.0%)
38 愛 媛	91.5	101.0	85.9	95.1	90.1	89.2	91.7	78.7 (-14.0%)
39 高 知	53.4	51.1	48.1	48.2	47.9	47.8	44.7	41.7 (-21.9%)
40 福 岡	352.1	309.6	287.6	312.5	322.0	331.7	304.4	341.9 (-2.9%)
41 佐 賀	64.3	57.5	53.6	61.0	55.3	58.5	57.3	56.5 (-12.1%)
42 長 崎	110.2	97.5	91.6	93.3	93.5	92.0	91.2	92.5 (-16.1%)
43 熊 本	121.8	114.7	108.1	119.6	111.3	124.9	118.5	116.1 (-4.7%)
44 大 分	71.8	65.1	61.3	72.6	67.9	71.9	66.6	65.1 (-9.3%)
45 宮 崎	71.3	71.0	69.2	72.6	67.1	72.6	67.4	66.9 (-6.2%)
46 鹿 児 島	114.5	111.2	101.0	107.4	97.4	105.1	107.1	98.7 (-13.8%)
47 沖 縄	45.6	45.7	43.7	55.3	55.0	61.4	61.9	66.9 (46.7%)

出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）

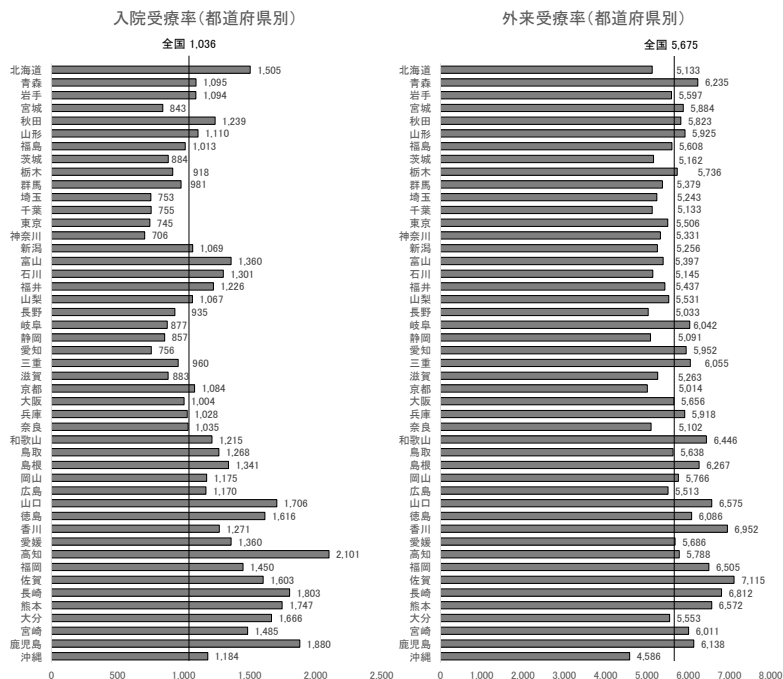
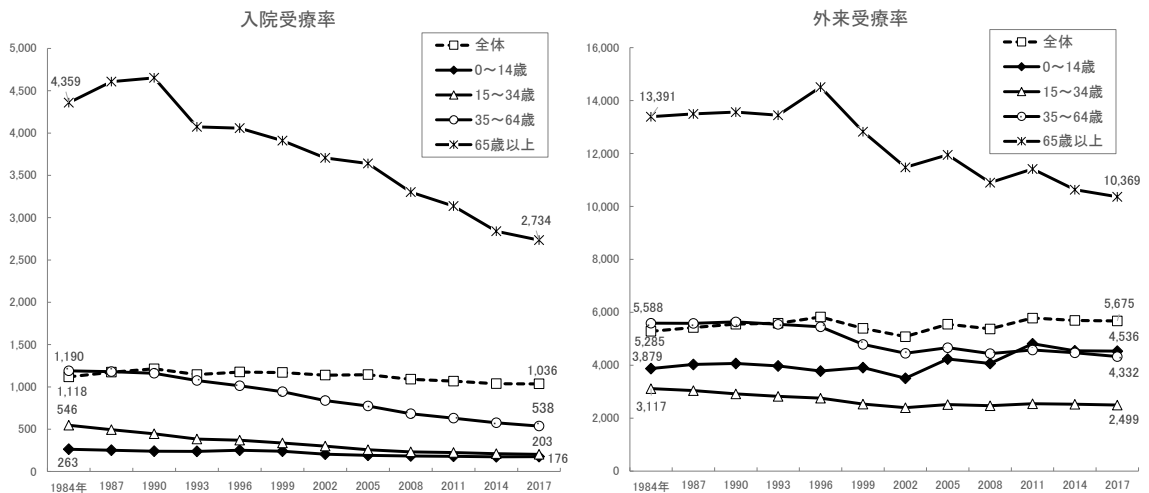
(2) 受療率の推移

受療率とは、人口 10 万人に対して、どれだけの割合の人が外来や入院などの医療を受けているかを表す数値である。

2017 年における人口 10 万人あたりの受療率をみると、全体で入院 1,036、外来では 5,675 となっている。年齢別では、入院、外来ともに「65 歳以上」が最も高いが、年々低下傾向にある。

都道府県別にみると、入院では高い順に高知 2,101、鹿児島 1,880、長崎 1,803、また低い順に神奈川 706、東京 745、埼玉 753 となっている。

入院の受療率の低下の要因は、在院日数の短縮や医療の高度化により入院しなくても済むようになる、あるいは入院日数が減少しているといったことが考えられる。



出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」(2019 年 3 月 1 日)

以下は、厚生労働省「患者調査」を基に、1996年から2017年までの入院及び外来の受療率の推移（10万人あたりの受療患者数）をみたものである。1996年と2017年の2か年の入院における受療率をみると、増加率が高い順に奈良県12.3%、山梨県11.3%、山形県9.1%となっている（青色の網掛け）。

反対に、減少率が高い順に岩手県▲22.5%、東京都▲21.7%、福島県▲20.4%となっている（赤色の網掛け）。

■ 都道府県別の入院受療率の推移（10万人あたりの受療患者数）

（カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	1,176	1,170	1,139	1,145	1,090	1,068	1,038	1,036 (-11.9%)
01 北 海 道	1,729	1,721	1,686	1,667	1,565	1,555	1,448	1,505 (-13.0%)
02 青 森	1,322	1,305	1,201	1,253	1,186	1,136	1,103	1,095 (-17.2%)
03 岩 手	1,412	1,385	1,311	1,309	1,220	1,162	1,135	1,094 (-22.5%)
04 宮 城	970	997	930	971	948	904	900	843 (-13.1%)
05 秋 田	1,397	1,374	1,322	1,384	1,332	1,277	1,267	1,239 (-11.3%)
06 山 形	1,017	1,062	1,106	1,117	1,120	1,138	1,110	1,110 (9.1%)
07 福 島	1,272	1,264	1,199	1,212	1,160	-	1,065	1,013 (-20.4%)
08 茨 城	928	934	918	939	884	881	864	884 (-4.7%)
09 栃 木	981	981	972	967	918	896	901	918 (-6.4%)
10 群 馬	1,017	1,046	1,079	1,048	1,030	1,013	980	981 (-3.5%)
11 埼 玉	773	743	768	771	741	752	723	753 (-2.6%)
12 千 葉	786	733	742	771	740	745	745	755 (-3.9%)
13 東 京	952	964	911	877	823	803	759	745 (-21.7%)
14 神 奈 川	783	779	759	764	705	674	683	706 (-9.8%)
15 新 潟	1,076	1,088	1,075	1,112	1,092	1,087	1,051	1,069 (-0.7%)
16 富 山	1,502	1,516	1,560	1,543	1,413	1,441	1,368	1,360 (-9.5%)
17 石 川	1,563	1,542	1,541	1,522	1,445	1,401	1,310	1,301 (-16.8%)
18 福 井	1,355	1,379	1,388	1,373	1,253	1,241	1,208	1,226 (-9.5%)
19 山 梨	959	985	1,024	1,074	1,000	1,002	993	1,067 (11.3%)
20 長 野	992	949	966	946	969	920	970	935 (-5.7%)
21 岐 阜	930	937	938	939	881	895	821	877 (-5.7%)
22 静 岡	901	889	880	871	852	854	836	857 (-4.9%)
23 愛 知	895	908	866	847	800	774	753	756 (-15.5%)
24 三 重	1,042	1,035	972	993	969	935	953	960 (-7.9%)
25 滋 賀	876	864	909	941	891	910	870	883 (0.8%)
26 京 都	1,141	1,188	1,130	1,168	1,144	1,133	1,095	1,084 (-5.0%)
27 大 阪	1,071	1,079	1,025	1,053	1,000	993	1,000	1,004 (-6.3%)
28 兵 庫	1,027	1,016	1,012	1,035	990	974	967	1,028 (0.1%)
29 奈 良	922	939	943	1,019	961	930	976	1,035 (12.3%)
30 和 歌 山	1,269	1,280	1,171	1,233	1,229	1,245	1,129	1,215 (-4.3%)
31 鳥 取	1,235	1,252	1,303	1,350	1,272	1,258	1,249	1,268 (2.7%)
32 島 根	1,458	1,436	1,475	1,509	1,419	1,417	1,397	1,341 (-8.0%)
33 岡 山	1,366	1,354	1,338	1,284	1,276	1,242	1,176	1,175 (-14.0%)
34 広 島	1,363	1,355	1,304	1,343	1,264	1,248	1,210	1,170 (-14.2%)
35 山 口	1,770	1,841	1,853	1,846	1,813	1,773	1,745	1,706 (-3.6%)
36 徳 島	1,974	1,929	1,774	1,816	1,752	1,708	1,705	1,616 (-18.1%)
37 香 川	1,560	1,553	1,533	1,528	1,366	1,356	1,310	1,271 (-18.5%)
38 愛 媛	1,593	1,611	1,551	1,576	1,456	1,431	1,413	1,360 (-14.6%)
39 高 知	2,394	2,287	2,233	2,263	2,191	2,208	2,215	2,101 (-12.2%)
40 福 岡	1,746	1,694	1,586	1,627	1,520	1,555	1,461	1,450 (-17.0%)
41 佐 賀	1,811	1,767	1,759	1,787	1,726	1,610	1,622	1,603 (-11.5%)
42 長 崎	2,041	1,977	1,846	1,876	1,860	1,865	1,812	1,803 (-11.7%)
43 熊 本	2,036	1,979	1,929	1,944	1,852	1,860	1,782	1,747 (-14.2%)
44 大 分	1,679	1,772	1,729	1,811	1,733	1,639	1,627	1,666 (-0.8%)
45 宮 崎	1,663	1,708	1,619	1,642	1,687	1,540	1,497	1,485 (-10.7%)
46 鹿 児 島	2,017	2,044	2,014	2,027	1,964	1,955	1,885	1,880 (-6.8%)
47 沖 縄	1,439	1,415	1,332	1,377	1,246	1,238	1,201	1,184 (-17.7%)

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

また、外来の受療率についても同様に、1996 年と 2017 年の 2 か年の増減率をみると、増加率が高い順に沖縄県 29.0%、茨城県 20.9%、三重県 15.4%となっている（青色の網掛け）。

反対に、減少率が高いのは、広島県の▲23.5%、京都府の▲18.5%、北海道の▲15.9%などである（赤色の網掛け）。

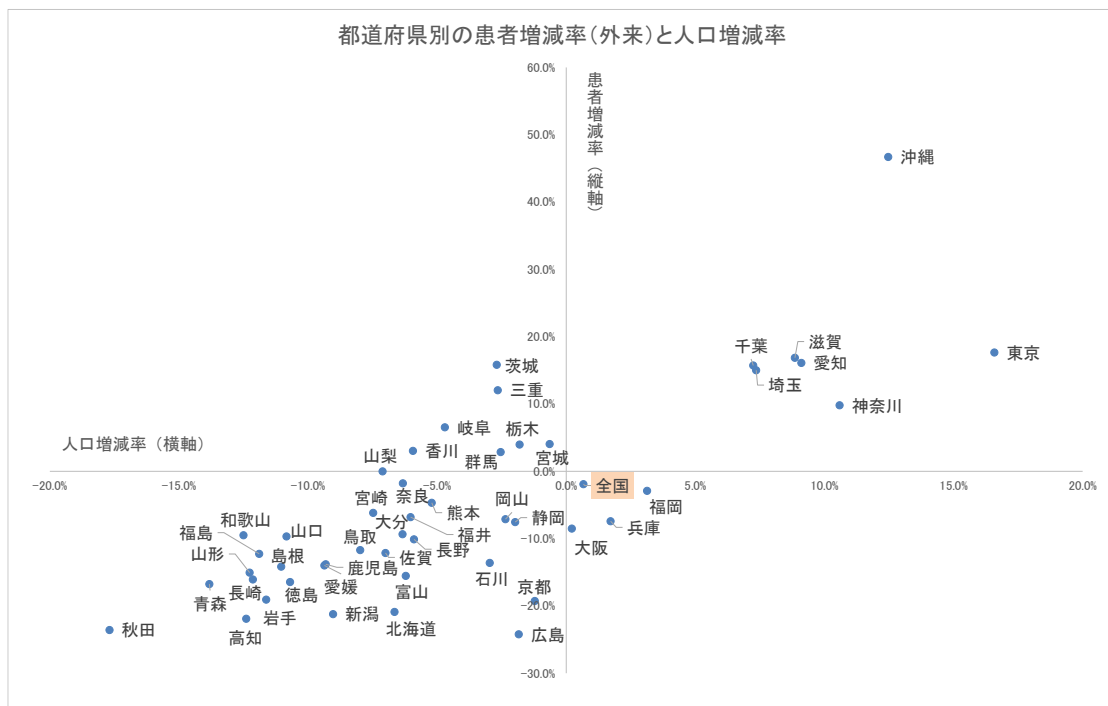
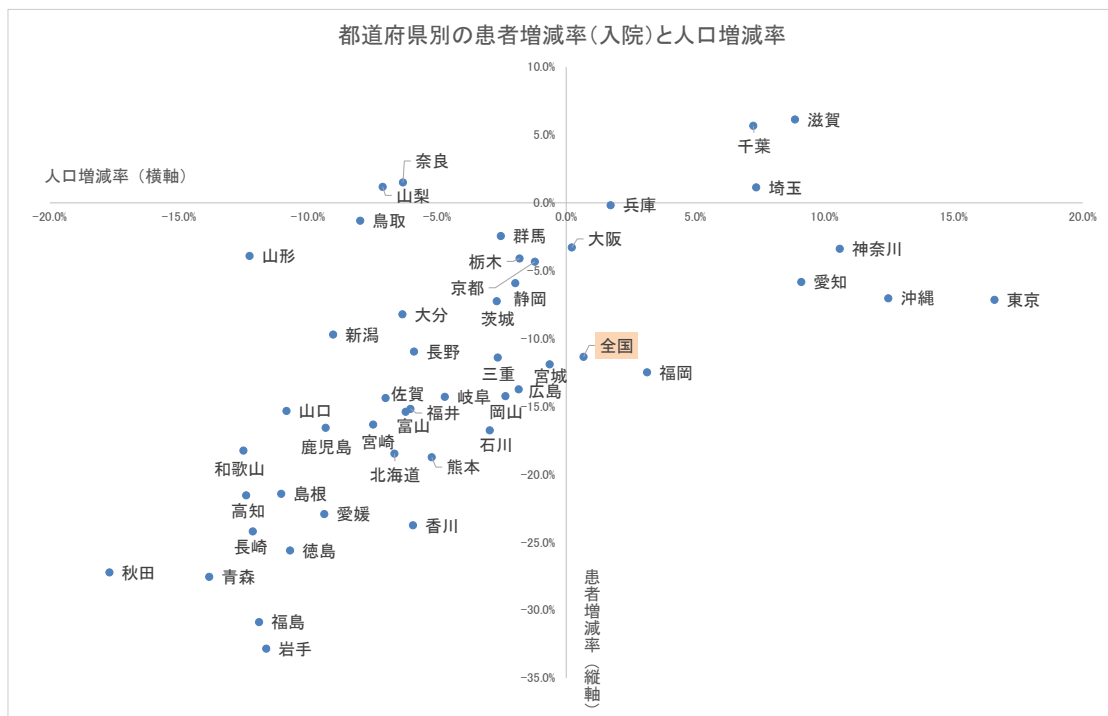
■ 都道府県別の外来受療率の推移（10 万人あたりの受療患者数）

（カッコは1996年と比較した増減率）

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
全 国	5,824	5,396	5,083	5,551	5,376	5,784	5,696	5,675 (-2.6%)
01 北 海 道	6,102	5,555	5,372	5,923	5,277	5,314	5,028	5,133 (-15.9%)
02 青 森	6,526	6,284	5,935	6,088	5,926	6,277	5,798	6,235 (-4.5%)
03 岩 手	6,099	5,870	4,954	5,633	5,604	5,541	5,492	5,597 (-8.2%)
04 宮 城	5,783	5,026	5,005	5,290	4,718	5,637	5,656	5,884 (1.7%)
05 秋 田	6,348	5,832	5,893	6,207	5,477	5,699	5,396	5,823 (-8.3%)
06 山 形	6,189	5,999	5,274	6,092	5,785	6,129	6,287	5,925 (-4.3%)
07 福 島	5,689	5,497	4,979	5,344	4,949	-	5,449	5,608 (-1.4%)
08 茨 城	4,269	4,302	3,822	4,783	4,609	5,084	5,306	5,162 (20.9%)
09 栃 木	5,541	5,246	4,647	5,236	5,334	5,668	5,396	5,736 (3.5%)
10 群 馬	5,373	4,684	4,597	5,362	5,030	5,678	5,404	5,379 (0.1%)
11 埼 玉	4,583	4,521	4,343	4,709	4,586	5,273	4,974	5,243 (14.4%)
12 千 葉	4,696	4,480	4,528	4,673	5,173	4,900	4,901	5,133 (9.3%)
13 東 京	5,851	5,698	5,348	5,574	5,044	6,256	5,676	5,506 (-5.9%)
14 神 奈 川	5,308	4,868	4,251	4,647	4,442	5,263	5,748	5,331 (0.4%)
15 新 潟	6,090	5,687	5,256	5,054	5,351	5,443	5,634	5,256 (-13.7%)
16 富 山	6,064	5,509	5,290	5,184	4,878	5,521	4,965	5,397 (-11.0%)
17 石 川	5,844	5,861	5,203	5,607	5,044	5,214	4,921	5,145 (-12.0%)
18 福 井	5,489	5,388	4,872	5,507	4,911	5,431	5,165	5,437 (-0.9%)
19 山 梨	5,043	4,446	3,994	4,956	4,904	5,678	5,426	5,531 (9.7%)
20 長 野	5,344	4,712	4,570	5,078	5,168	5,162	5,122	5,033 (-5.8%)
21 岐 阜	5,449	5,200	5,193	5,606	5,607	6,097	6,018	6,042 (10.9%)
22 静 岡	5,417	4,769	4,925	4,844	5,273	5,033	5,177	5,091 (-6.0%)
23 愛 知	5,654	5,256	4,638	5,303	5,661	5,894	5,597	5,952 (5.3%)
24 三 重	5,249	5,264	4,801	5,802	4,900	5,996	6,539	6,055 (15.4%)
25 滋 賀	4,881	4,373	4,092	5,251	4,915	5,504	5,071	5,263 (7.8%)
26 京 都	6,155	5,341	4,870	5,566	5,279	5,375	4,980	5,014 (-18.5%)
27 大 阪	6,446	5,822	5,688	5,725	5,493	5,664	5,966	5,656 (-12.3%)
28 兵 庫	6,442	5,232	5,140	6,194	5,773	6,146	6,015	5,918 (-8.1%)
29 奈 良	4,694	4,708	4,499	5,158	5,115	4,728	5,367	5,102 (8.7%)
30 和 歌 山	6,332	6,111	4,962	6,716	5,961	6,548	6,570	6,446 (1.8%)
31 鳥 取	6,122	4,987	4,741	5,656	5,394	5,879	5,916	5,638 (-7.9%)
32 島 根	6,502	6,100	5,731	6,148	6,081	6,107	6,013	6,267 (-3.6%)
33 岡 山	6,187	5,543	5,132	6,122	5,406	6,327	5,588	5,766 (-6.8%)
34 広 島	7,211	6,528	6,236	6,696	6,222	6,528	6,215	5,513 (-23.5%)
35 山 口	6,467	5,926	5,148	6,572	5,907	6,485	6,502	6,575 (1.7%)
36 徳 島	6,577	5,946	5,453	6,685	6,339	6,538	6,256	6,086 (-7.5%)
37 香 川	6,396	6,161	5,861	6,712	6,548	6,492	6,509	6,952 (8.7%)
38 愛 媛	6,078	6,673	5,731	6,492	6,123	6,243	6,521	5,686 (-6.4%)
39 高 知	6,549	6,418	5,909	6,047	6,208	6,291	6,036	5,788 (-11.6%)
40 福 岡	7,110	6,154	5,594	6,129	6,199	6,456	5,895	6,505 (-8.5%)
41 佐 賀	7,255	6,622	6,361	7,168	6,516	6,931	6,850	7,115 (-1.9%)
42 長 崎	7,149	6,402	6,067	6,309	6,439	6,492	6,525	6,812 (-4.7%)
43 熊 本	6,544	6,094	5,738	6,528	6,119	6,810	6,550	6,572 (0.4%)
44 大 分	5,837	5,225	5,041	5,981	5,551	6,051	5,619	5,553 (-4.9%)
45 宮 崎	6,056	5,991	5,730	6,170	5,797	6,412	5,908	6,011 (-0.7%)
46 鹿 児 島	6,387	6,295	5,774	6,194	5,655	6,211	6,440	6,138 (-3.9%)
47 沖 縄	3,555	3,477	3,267	4,056	3,984	4,371	4,317	4,586 (29.0%)

出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）

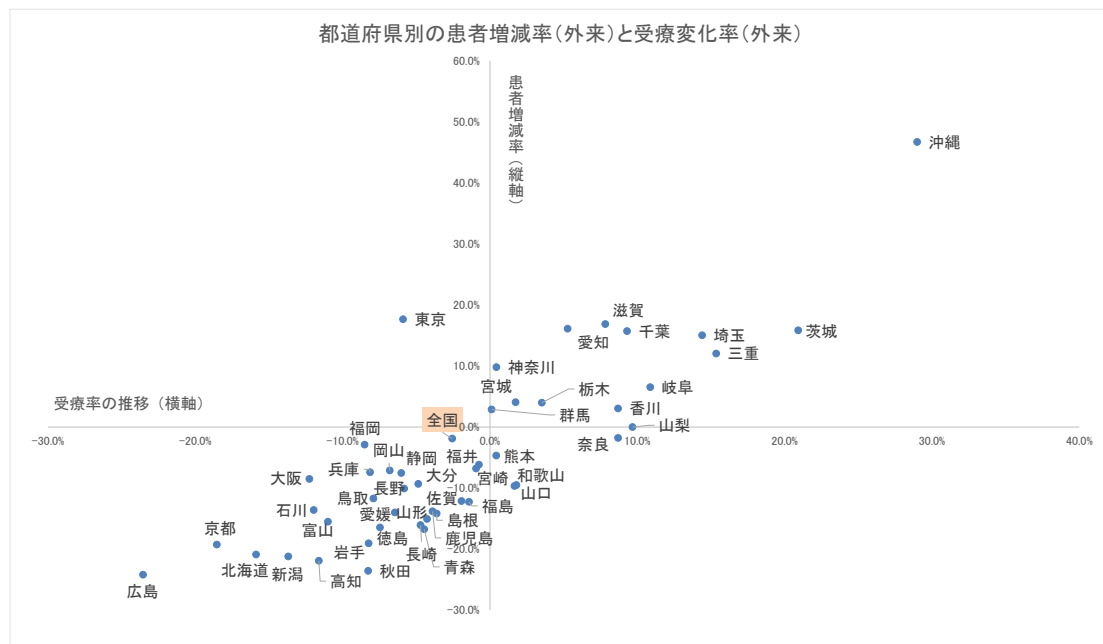
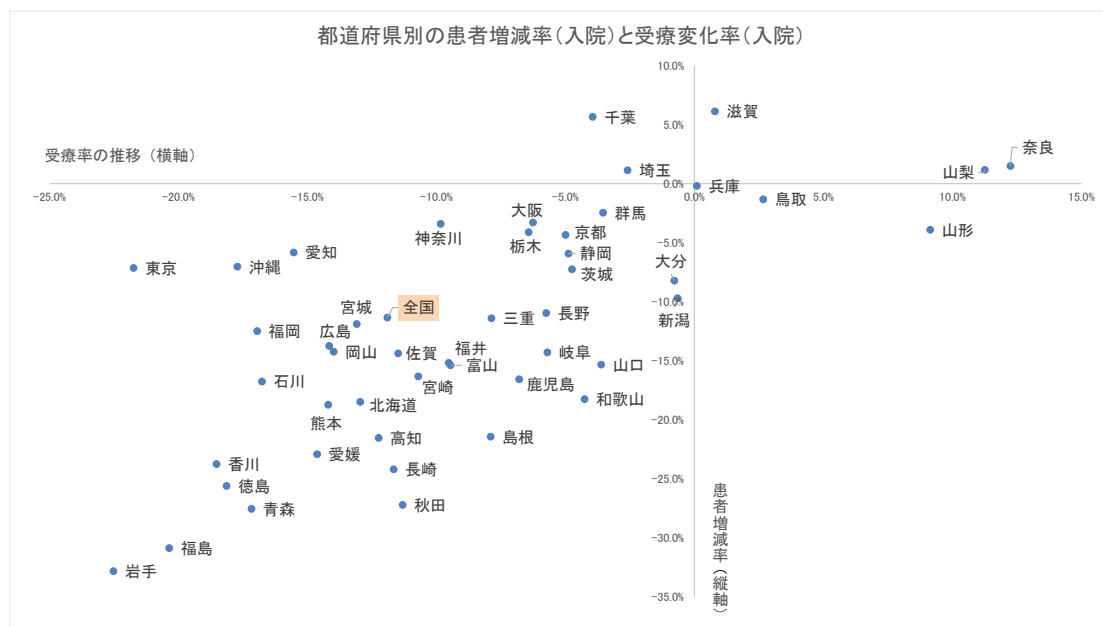
ここで、前段で触れてきた人口の推移と患者数の増減（ともに 1996 年と 2017 年を比較）を各都道府県別にプロットして図表上でみていくと、入院・外来患者数と全体の人口が増えているのは、滋賀県、千葉県と埼玉県のみであった。一方、秋田県や青森県などにおいては、人口の減少とともに、入院・外来患者数も全国と比較して大幅に減少していることがわかる。



出典：総務省「人口推計」（1996 年～2017 年）、厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）

続いて、前段で触れた受療率と患者数の増減（ともに 1996 年と 2017 年を比較）を各都道府県別にプロットして図表上でみていくと、入院患者の患者数と受療率がともに増えているのは、奈良県、山梨県、滋賀県のみであった。

また、外来の患者数と受療率において、ともに増加している県は 14 県が存在し、なかでも沖縄においては、患者増減率 46.7%、受療率 29.0%と大幅に増加している。



出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）

P. 11、12 の図表を「全国」平均に着目してみよう。1996 年～2017 年における人口自体は 0.7%増となっている中、入院における患者増減率は▲11.3%、受療率は▲11.9%となっている。「人口は微増であるものの受療率がマイナスとなっている」要因は、P. 8 で示された「65 歳以上の受療率低下」が反映されているものと推測される。

ただし、この構図は都道府県毎に異なるものである。例えば秋田県においては、全体の入院患者数は▲27.2%の低下であり、全国 4 位の低下幅となっている。これは秋田県の人口自体が▲17.7%の減少となっていることが大きな要因だと思われるが、人口構成という意味では受療率が高い 65 歳以上人口が 43.3%の増加であるにも関わらず、県全体の入院受療率は▲11.3%となっており、「65 歳以上の受療率低下」がこうした動きの一因になっているものと推測される。

一方で、例えば東京都であれば、全体の入院患者数は▲7.1%である。人口自体は 16.6%増と大幅な伸びを見せる一方、入院受療率は▲21.7%と大幅に低下しており、全国平均と比較すると非常に振れ幅の大きな形になっている。東京都は人口構成において「65 歳以下人口」も微増となっている数少ない都道府県であるが、そうした中でも受療率のマイナス幅が大きいことは特徴的であり、「65 歳以上の受療率低下」という側面だけで全てが語れない事例の一つである。このように都道府県毎にも事情は異なり、かつ、同じ都道府県内においても二次医療圏毎もしくは病院の機能毎に、こうした受療率の低下に関する実感の度合いは異なるものと思われる。

(3) 疾患動向の変化

ア 傷病分類別にみた推計患者数（2017 年 10 月時点）

患者数の総数では、「X I 消化器系の疾患」の 1,359.3 千人が最も多く、次いで「IX 循環器系の疾患」の 1,117.5 千人となっている。（患者総数の上位 5 傷病に色付けしている。）

また、入院患者をみると、「V 精神及び行動の障害」の 252.0 千人、「IX 循環器系の疾患」の 228.6 千人、「II 新生物＜腫瘍＞」の 142.2 千人の順に多い。

一方、外来患者では、多い順に「X I 消化器系の疾患」が 1,293.2 千人、「IX 循環器系の疾患」が 888.9 千人、「X III 筋骨格系及び結合組織の疾患」が 877.2 千人となっており、入院と外来の疾患構造は大きく異なっている。

（単位：千人）

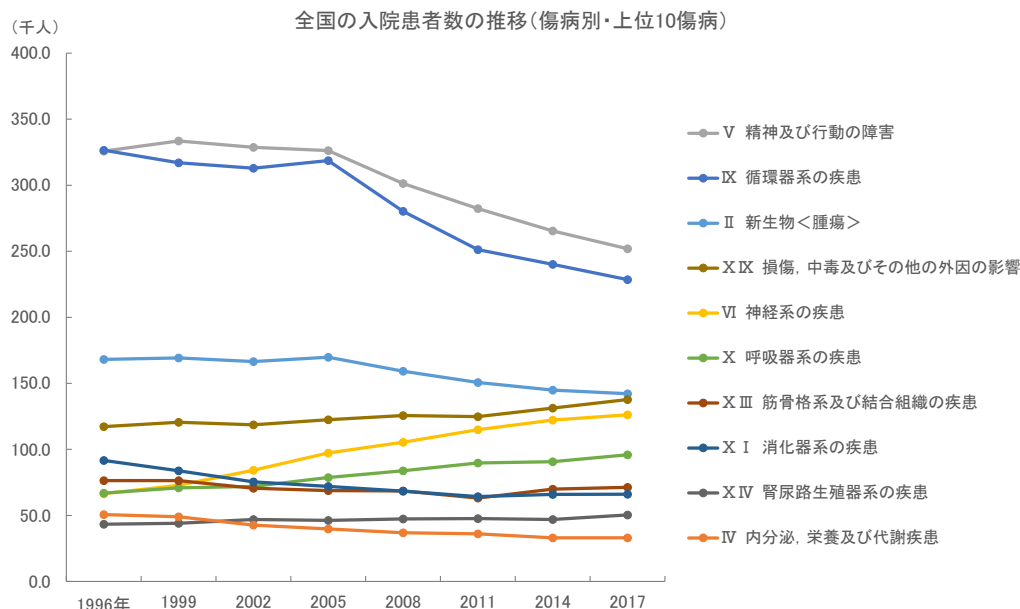
傷病分類	総数	入院			外来			
		総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	8,503.6	1,312.6	1,272.6	39.9	7,191.0	1,630.0	4,213.3	1,347.7
I 感染症及び寄生虫症	189.6	19.8	19.5	0.3	169.8	35.9	133.9	-
結核	4.3	2.8	2.8	0.0	1.5	1.3	0.2	-
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	62.3	1.6	1.5	0.1	60.8	6.0	54.8	-
真菌症	39.9	0.9	0.9	-	39.0	5.7	33.3	-
II 新生物＜腫瘍＞	391.7	142.2	140.6	1.5	249.5	200.2	49.2	-
悪性新生物＜腫瘍＞	309.7	126.1	124.9	1.3	183.6	157.1	26.5	-
胃の悪性新生物＜腫瘍＞	32.4	12.5	12.3	0.2	19.9	15.8	4.1	-
結腸及び直腸の悪性新生物	48.4	18.7	18.4	0.3	29.7	24.6	5.1	-
気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	34.9	17.8	17.6	0.2	17.1	15.2	1.9	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	27.0	5.9	5.7	0.1	21.1	10.8	10.3	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	475.9	33.0	31.6	1.4	442.9	120.8	322.1	-
甲状腺障害	33.1	0.9	0.9	0.0	32.2	12.9	19.3	-
糖尿病	242.9	18.9	18.0	0.9	224.0	75.9	148.1	-
V 精神及び行動の障害	512.9	252.0	250.4	1.6	260.9	108.1	152.8	-
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	216.2	153.5	153.3	0.2	62.7	39.9	22.8	-
気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	119.5	29.9	29.2	0.7	89.6	27.2	62.4	-
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	65.0	5.5	5.5	0.1	59.4	15.7	43.7	-
VI 神経系の疾患	291.1	126.2	124.3	1.9	164.9	67.6	97.3	-
VII 眼及び付属器の疾患	370.2	11.7	10.6	1.1	358.5	61.5	297.0	-
白内障	90.8	7.5	6.7	0.7	83.4	17.2	66.2	-
VIII 耳及び乳突突起の疾患	101.8	2.6	2.5	0.1	99.2	14.4	84.8	-
IX 循環器系の疾患	1,117.5	228.6	222.4	6.3	888.9	221.3	667.6	-
高血圧性疾患	652.5	5.6	4.5	1.1	646.9	99.2	547.7	-
心疾患(高血圧性のものを除く)	198.2	64.0	62.4	1.5	134.2	67.5	66.7	-
虚血性心疾患	70.7	15.3	15.1	0.2	55.3	27.4	27.9	-
脳血管疾患	231.9	146.0	142.5	3.5	85.9	41.2	44.7	-
X 呼吸器系の疾患	725.8	95.9	93.3	2.6	629.9	81.1	548.7	-
急性上気道感染症	249.8	1.2	1.2	0.1	248.5	18.4	230.2	-
肺炎	43.4	35.6	34.4	1.3	7.8	3.5	4.2	-
急性気管支炎及び急性細気管支炎	93.5	2.3	2.3	0.1	91.2	8.9	82.3	-
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	30.8	8.2	7.9	0.3	17.6	6.9	10.6	-
喘息	124.6	3.5	3.3	0.2	121.1	20.2	100.9	-
X I 消化器系の疾患	1,359.3	66.1	64.2	1.9	1,293.2	130.8	151.1	1,011.3
う蝕	277.1	0.0	0.0	-	277.1	3.4	0.9	272.9
歯肉炎及び歯周病	469.2	0.1	0.1	-	469.1	12.5	2.3	454.4
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	23.7	3.2	3.2	0.0	20.5	8.2	12.2	-
胃炎及び十二指腸炎	66.6	0.6	0.5	0.0	66.1	15.6	50.5	-
肝疾患	34.3	7.4	7.1	0.3	26.9	12.8	14.1	-
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	315.2	11.7	11.3	0.4	303.5	44.7	258.8	-
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	948.5	71.3	67.3	4.0	877.2	183.4	693.8	-
炎症性多発性関節障害	54.0	4.4	4.2	0.2	49.6	17.4	32.2	-
関節症	219.4	15.9	15.0	0.9	203.5	38.4	165.2	-
脊柱障害	443.2	24.4	22.4	2.0	418.8	72.2	346.6	-
骨の密度及び構造の障害	61.7	2.0	2.0	0.1	59.7	14.1	45.6	-
X IV 泌尿路生殖器系の疾患	371.8	50.3	47.5	2.8	321.5	115.9	205.6	-
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	188.6	35.1	32.9	2.1	153.6	58.2	95.4	-
前立腺肥大(症)	33.3	1.3	1.2	0.1	32.0	15.0	17.0	-
乳房及び女性生殖器の疾患	94.2	2.4	2.1	0.3	91.8	23.7	68.1	-
X V 妊娠、分娩及び産後	33.4	18.3	13.0	5.2	15.1	7.3	7.8	-
妊娠高血圧症候群	0.7	0.5	0.4	0.1	0.3	0.2	0.1	-
X VI 周産期に発生した病態	10.0	7.0	6.7	0.3	3.0	2.6	0.5	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	19.8	5.7	5.7	0.0	14.1	10.3	3.8	-
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	93.3	14.4	13.7	0.7	78.9	37.0	41.9	-
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	436.7	137.7	131.0	6.7	299.0	92.0	203.2	3.8
骨折	196.0	97.4	92.0	5.5	98.6	39.0	59.6	-
X X 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	712.2	12.1	11.2	1.0	700.1	84.4	283.1	332.6
歯の補てつ	292.4	0.0	0.0	-	292.4	5.0	1.2	286.2

出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」（2019 年 3 月 1 日）

イ 入院患者数の推移（傷病分類別）

入院患者数の推移をみると、「Ⅴ 精神及び行動の障害」、「Ⅸ 循環器系の疾患」は大幅な減少傾向にあり、また「ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患」、「ⅩⅣ 腎尿路生殖系系の疾患」、「Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患」などは、ほぼ横ばい傾向となっている。

一方、「Ⅵ 神経系の疾患」、「Ⅹ 呼吸器系の疾患」等は増加傾向にある。



（単位：千人）

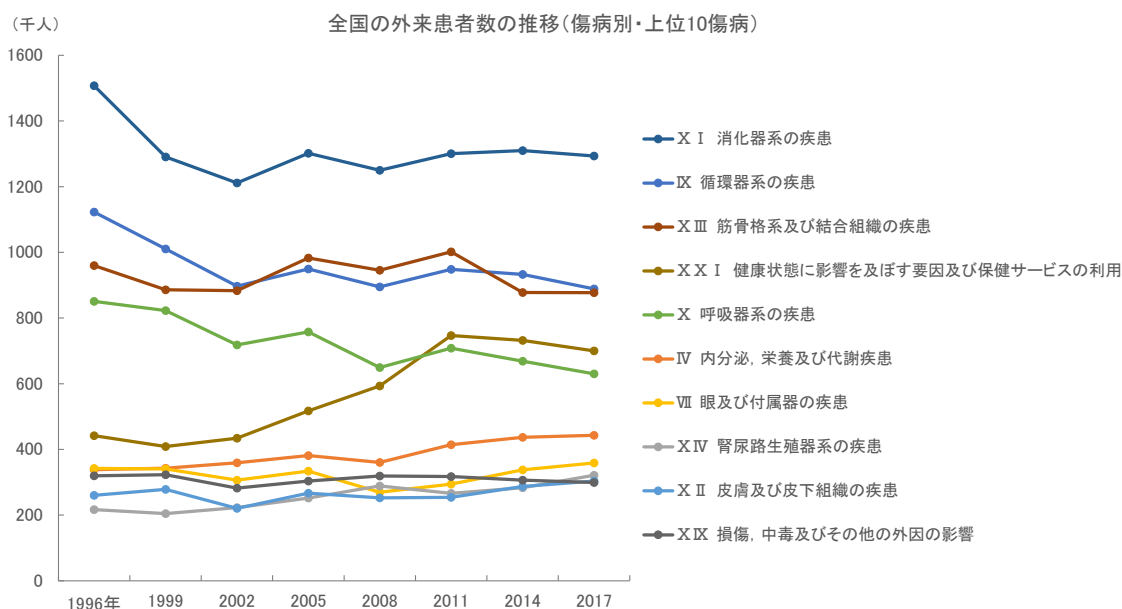
傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	1,480.5	1,482.6	1,451.0	1,462.8	1,392.4	1,341.0	1,318.8	1,312.6
I 感染症及び寄生虫症	35.8	34.4	31.6	27.2	24.6	22.4	20.7	19.8
II 新生物＜腫瘍＞	168.2	169.3	166.5	169.8	159.2	150.6	144.9	142.2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6.7	6.6	5.8	5.9	5.9	6.5	6.3	5.9
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	50.6	49.0	42.6	39.7	36.9	36.0	33.0	33.0
V 精神及び行動の障害	325.9	333.5	328.8	326.2	301.4	282.3	265.5	252.0
VI 神経系の疾患	66.5	72.8	84.2	97.3	105.4	114.9	122.2	126.2
VII 眼及び付属器の疾患	14.3	15.5	14.7	12.7	10.3	11.9	11.5	11.7
VIII 耳及び乳突起の疾患	3.5	3.7	3.3	3.0	2.7	2.7	2.5	2.6
IX 循環器系の疾患	326.6	317.1	312.9	318.7	280.3	251.3	240.1	228.6
X 呼吸器系の疾患	66.9	70.8	72.0	78.7	83.8	89.7	90.7	95.9
XⅠ 消化器系の疾患	91.6	83.8	75.4	72.0	68.4	64.3	65.9	66.1
XⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	7.3	8.3	8.6	9.5	12.3	15.8	10.9	11.7
XⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	76.3	76.3	70.6	68.8	68.5	63.1	69.9	71.3
XⅣ 腎尿路生殖系系の疾患	43.4	44.0	46.9	46.2	47.3	47.6	46.9	50.3
XⅤ 妊娠、分娩及び産じょく	26.6	25.4	24.1	19.0	19.4	17.6	18.4	18.3
XⅥ 周産期に発生した病態	6.7	6.0	6.3	6.2	6.1	6.6	6.7	7.0
XⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常	7.1	7.2	6.2	5.8	5.7	5.8	5.8	5.7
XⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21.8	22.5	21.3	23.8	18.8	18.6	16.0	14.4
XⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	117.2	120.5	118.6	122.5	125.6	124.8	131.3	137.7
XXⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	17.6	15.8	10.4	9.8	9.9	8.3	9.7	12.1

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

ウ 外来患者数の推移（傷病分類別）

外来患者数の推移をみると、「X I 消化器系の疾患」、「IX 循環器系の疾患」、「X 呼吸器系の疾患」は大幅な減少傾向にある。

一方、「X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「IV 内分泌、栄養及び代謝疾患」、「X IV 腎尿路生殖器系の疾患」は増加傾向にある。



(単位:千人)

傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	7,329.8	6,835.9	6,478.0	7,092.4	6,865.0	7,260.5	7,238.4	7,191.0
I 感染症及び寄生虫症	212.0	212.0	219.0	227.5	194.6	169.9	173.3	169.8
II 新生物＜腫瘍＞	192.9	181.9	180.0	204.6	218.2	219.9	231.6	249.5
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	34.2	28.1	27.0	26.4	22.6	22.3	21.6	21.1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	338.3	342.5	359.5	381.5	360.3	414.4	437.0	442.9
V 精神及び行動の障害	155.6	156.4	200.3	224.5	232.3	221.2	257.7	260.9
VI 神経系の疾患	120.2	111.6	119.3	143.2	133.0	149.8	173.0	164.9
VII 眼及び付属器の疾患	342.3	340.6	306.3	333.7	269.3	294.1	337.9	358.5
VIII 耳及び乳様突起の疾患	138.0	135.5	101.7	114.6	122.4	114.7	100.5	99.2
IX 循環器系の疾患	1,122.7	1,010.5	897.0	949.5	894.8	948.3	933.0	888.9
X 呼吸器系の疾患	851.0	822.8	717.9	757.7	649.3	708.0	668.4	629.9
X I 消化器系の疾患	1,507.7	1,290.5	1,211.5	1,301.4	1,249.8	1,300.3	1,310.0	1,293.2
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	260.3	278.4	220.4	266.6	252.7	254.0	286.9	303.5
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	959.7	886.1	883.0	983.1	945.3	1,001.8	877.8	877.2
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	216.7	204.6	222.8	252.0	288.7	266.0	283.1	321.5
X V 妊娠、分娩及び産じょく	18.1	18.4	18.0	14.5	17.1	13.9	14.5	15.1
X VI 周産期に発生した病態	1.8	2.5	2.2	2.0	2.6	2.6	2.9	3.0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	13.5	11.5	9.9	12.0	12.9	11.4	14.3	14.1
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	83.3	70.2	65.9	76.3	86.5	83.7	76.9	78.9
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	319.8	323.1	282.2	303.9	319.3	317.6	306.5	299.0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	441.8	408.8	434.3	517.4	593.3	746.5	731.7	700.1

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

(4) 二次医療圏別の患者流出入

以下は、二次医療圏別に病院の推計入院患者数の圏内への流入割合、圏外への流出割合を示したものである。人口が多い地域では比較的に流出入の差分が少ないが、人口が少ない地域では流出入の差分が大きくなる傾向にあることがわかる。

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
全国	22.4	22.4	0.0	127,095
北海道	10.6	10.5	0.1	5,382
南渡島	7.8	3.9	3.9	382
南檜山	3.1	52.3	-49.2	24
北渡島檜山	29.9	39.9	-10.0	37
札幌	12.0	1.8	10.2	2,375
後志	6.1	28.2	-22.1	216
南空知	10.0	31.9	-21.9	167
中空知	13.2	10.6	2.6	109
北空知	23.4	27.0	-3.6	33
西胆振	10.1	9.8	0.3	190
東胆振	12.2	23.5	-11.3	212
日高	3.5	49.2	-45.7	69
上川中部	13.6	3.6	10.0	394
上川北部	3.0	25.9	-22.9	67
富良野	5.9	23.9	-18.0	43
留萌	0.9	43.7	-42.8	48
宗谷	2.7	42.3	-39.6	68
北網	8.4	10.7	-2.3	223
遠軽	1.0	30.1	-29.1	71
十勝	2.5	6.8	-4.3	343
釧路	10.0	4.2	5.8	237
根室	0.8	34.0	-33.2	77
青森県	14.8	13.8	1.0	1,308
津軽地域	19.7	5.9	13.8	292
八戸地域	13.6	8.3	5.3	323
青森地域	17.5	7.3	10.2	311
西北五地域	2.3	29.0	-26.7	132
上十三地域	13.4	28.0	-14.6	176
下北地域	5.0	32.1	-27.1	74
岩手県	19.6	20.8	-1.2	1,280
盛岡	23.8	4.2	19.6	477
岩手中部	18.7	31.5	-12.8	225
胆江	16.4	23.5	-7.1	135
両磐	24.9	30.4	-5.5	129
気仙	14.5	41.7	-27.2	64
釜石	15.7	18.6	-2.9	49
宮古	5.2	25.1	-19.9	86
久慈	12.4	41.1	-28.7	59
二戸	12.3	43.2	-30.9	56
宮城県	14.6	13.3	1.3	2,334
仙南	12.1	27.9	-15.8	177
仙台	14.6	4.4	10.2	1,529
大崎・栗原	20.4	26.0	-5.6	276
石巻・登米・気仙沼	11.0	24.4	-13.4	352
秋田県	15.4	16.2	-0.8	1,023
大館・鹿角	9.5	17.5	-8.0	112
北秋田	18.5	53.1	-34.6	36
能代・山本	8.6	19.1	-10.5	82
秋田周辺	16.3	4.3	12.0	401
由利本荘・にかほ	15.3	11.2	4.1	105
大仙・仙北	10.7	29.6	-18.9	131
横手	29.4	20.5	8.9	92
湯沢・雄勝	14.0	39.9	-25.9	65
山形県	7.4	7.1	0.3	1,124
村山	10.1	2.9	7.2	552
最上	9.8	19.8	-10.0	78
置賜	5.0	15.4	-10.4	215
庄内	2.0	6.0	-4.0	279
福島県	12.9	14.4	-1.5	1,914
県北	12.3	7.8	4.5	491
県中	16.2	8.4	7.8	539
県南	25.0	34.6	-9.6	144
会津	9.6	6.3	3.3	251
南会津	-	82.6	-	27
相双	8.1	60.2	-52.1	112
いわき	8.8	7.1	1.7	350

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
茨城県	34.3	34.4	-0.1	2,917
水戸	33.5	23.0	10.5	468
日立	20.4	14.3	6.1	259
常陸太田・ひたちなか	27.0	47.6	-20.6	361
鹿行	16.6	50.0	-33.4	275
土浦	44.0	33.9	10.1	259
つくば	57.6	39.0	18.6	338
取手・竜ヶ崎	35.7	31.6	4.1	466
筑西・下妻	23.3	44.3	-21.0	264
古河・坂東	31.6	34.2	-2.6	228
栃木県	27.0	25.0	2.0	1,974
県北	11.6	20.9	-9.3	381
県西	18.8	35.3	-16.5	182
宇都宮	30.3	19.4	10.9	143
県東	11.0	49.5	-38.5	519
県南	42.7	24.5	18.2	482
両毛	21.4	21.2	0.2	268
群馬県	32.5	30.2	2.3	1,973
前橋	42.7	26.0	16.7	336
渋川	57.3	35.8	21.5	429
伊勢崎	40.0	29.5	10.5	114
高崎・安中	21.5	31.1	-9.6	69
藤岡	45.4	49.3	-3.9	72
富岡	28.7	20.8	7.9	56
吾妻	23.7	28.5	-4.8	83
沼田	13.1	32.7	-19.6	245
桐生	18.9	24.6	-5.7	166
太田・館林	27.1	32.6	-5.5	401
埼玉県	30.5	32.9	-2.4	7,267
南部	26.9	35.9	-9.0	787
南西部	32.0	43.9	-11.9	709
東部	26.8	26.5	0.3	1,140
さいたま	26.2	36.5	-10.3	1,264
県央	38.2	43.8	-5.6	529
川越比企	35.7	24.7	11.0	800
西部	33.8	24.9	8.9	778
利根	31.5	39.2	-7.7	647
北部	26.4	29.1	-2.7	510
秩父	5.0	42.5	-37.5	102
千葉県	28.4	26.8	1.6	6,223
千葉	35.4	25.4	10.0	972
東葛南部	30.5	24.6	5.9	1,739
東葛北部	22.3	23.7	-1.4	1,357
印旛	38.6	33.6	5.0	710
香取海匝	21.4	28.1	-6.7	281
山武長生夷隅	15.7	37.2	-21.5	434
安房	31.9	8.0	23.9	128
君津	18.1	26.5	-8.4	327
市原	27.2	30.3	-3.1	275
東京都	42.5	41.6	0.9	13,515
区中央部	76.0	57.6	18.4	861
区南部	24.2	40.4	-16.2	1,104
区西南部	46.2	50.1	-3.9	1,406
区西部	52.2	51.2	1.0	1,226
区西北部	33.2	35.0	-1.8	1,916
区東北部	25.5	41.0	-15.5	1,325
区東部	27.8	49.3	-21.5	1,436
西多摩	42.5	20.4	22.1	391
南多摩	43.5	30.2	13.3	1,430
北多摩西部	30.2	49.2	-19.0	641
北多摩南部	48.4	39.0	9.4	1,023
北多摩北部	40.3	36.5	3.8	731
島しょ	-	77.8	-	26

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
神奈川県	34.3	36.6	-2.3	9,126
横浜北部	36.4	45.0	-8.6	1,570
横浜西部	41.7	33.7	8.0	1,105
横浜南部	30.8	41.5	-10.7	1,050
川崎北部	40.1	44.9	-4.8	843
川崎南部	35.7	44.9	-9.2	632
横須賀・三浦	25.0	34.6	-9.6	714
湘南東部	25.7	30.0	-4.3	711
湘南西部	33.8	22.5	11.3	587
県央	27.3	39.3	-12.0	846
相模原	42.4	26.4	16.0	721
県西	25.9	27.3	-1.4	347
新潟県	11.7	11.9	-0.2	2,304
下越	13.4	14.9	-1.5	211
新潟	12.6	4.7	7.9	917
県央	13.3	39.6	-26.3	227
中越	14.8	9.9	4.9	448
魚沼	6.8	20.0	-13.2	169
上越	4.1	8.6	-4.5	274
佐渡	2.0	15.9	-13.9	57
富山県	11.6	12.2	-0.6	1,066
新川	8.8	16.5	-7.7	122
富山	13.0	4.9	8.1	502
高岡	7.6	19.4	-11.8	312
砺波	15.7	18.5	-2.8	131
石川県	14.9	12.9	2.0	1,154
南加賀	7.2	19.5	-12.3	229
石川中央	17.8	1.9	15.9	728
能登中部	11.6	33.0	-21.4	128
能登北部	0.8	50.4	-49.6	68
福井県	17.1	17.5	-0.4	787
福井・坂井	22.9	5.8	17.1	405
奥越	5.5	41.6	-36.1	57
丹南	9.2	33.2	-24.0	185
嶺南	8.5	18.3	-9.8	140
山梨県	27.0	28.7	-1.7	835
中北	23.8	15.5	8.3	465
峡東	45.7	32.1	13.6	136
峡南	15.8	58.2	-42.4	53
富士・東部	8.9	47.8	-38.9	181
長野県	14.1	13.6	0.5	2,099
佐久	18.5	14.2	4.3	209
上小	23.1	19.9	3.2	197
諏訪	13.0	14.8	-1.8	198
上伊那	9.6	18.8	-9.2	184
飯伊	4.7	7.5	-2.8	162
木曽	1.7	57.3	-55.6	28
松本	17.9	5.9	12.0	428
大北	8.6	56.4	-47.8	60
長野	10.9	7.1	3.8	543
北信	11.2	36.1	-24.9	88
岐阜県	13.9	18.8	-4.9	2,032
岐阜	16.9	10.8	6.1	800
西濃	14.4	19.1	-4.7	372
中濃	12.2	27.9	-15.7	374
東濃	11.2	28.1	-16.9	337
飛騨	5.9	15.4	-9.5	149
静岡県	15.8	15.3	0.5	3,700
賀茂	21.6	25.9	-4.3	66
熱海伊東	28.8	42.8	-14.0	106
駿東田方	22.7	11.0	11.7	658
富士	14.6	19.0	-4.4	379
静岡	16.1	8.5	7.6	705
志太榛原	5.6	21.9	-16.3	463
中東遠	12.9	22.0	-9.1	465
西部	13.4	8.9	4.5	858
愛知県	24.4	22.8	1.6	7,483
名古屋	21.2	16.2	5.0	2,296
海部	28.1	44.8	-16.7	329
尾張中部	52.6	66.6	-14.0	167
尾張東部	58.7	33.9	24.8	467
尾張西部	22.3	22.4	-0.1	518
尾張北部	27.7	24.0	3.7	733
知多半島	11.9	32.5	-20.6	621
西三河北部	23.2	23.1	0.1	484
西三河南部西	23.4	25.2	-1.8	690
西三河南部東	19.7	28.6	-8.9	421
東三河北部	16.0	56.2	-40.2	57
東三河南部	11.2	7.8	3.4	701
三重県	13.8	16.0	-2.2	1,816
北勢	8.9	12.6	-3.7	841
中勢伊賀	24.2	17.4	6.8	449
南勢志摩	11.1	15.4	-4.3	454
東紀州	10.3	31.8	-21.5	72

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
滋賀県	27.3	29.8	-2.5	1,413
大津	31.2	26.3	4.9	341
湖南	33.6	32.5	1.1	334
甲賀	25.8	28.6	-2.8	145
東近江	27.4	24.5	2.9	230
湖東	22.5	38.6	-16.1	156
湖北	12.9	28.1	-15.2	157
湖西	6.1	43.7	-37.6	50
京都府	18.6	17.7	0.9	2,610
丹後	7.9	31.3	-23.4	97
中丹	20.3	17.3	3.0	197
南丹	12.6	40.6	-28.0	137
京都・乙訓	16.4	8.3	8.1	1,624
山城北	30.7	33.9	-3.2	438
山城南	27.9	64.4	-36.5	117
大阪府	25.9	24.1	1.8	8,839
豊能	34.5	28.1	6.4	1,037
三島	28.0	18.9	9.1	747
北河内	22.5	23.8	-1.3	1,164
中河内	23.5	37.1	-13.6	843
南河内	31.2	27.8	3.4	613
堺市	30.7	23.7	7.0	839
泉州	25.8	14.4	11.4	906
大阪市	21.1	23.7	-2.6	2,691
兵庫県	22.6	23.9	-1.3	5,535
神戸	19.0	18.0	1.0	1,537
阪神南	23.6	28.9	-5.3	1,036
阪神北	36.7	34.4	2.3	722
東播磨	19.5	23.4	-3.9	717
北播磨	32.7	22.4	10.3	272
中播磨	20.9	16.4	4.5	579
西播磨	19.3	28.3	-9.0	260
但馬	9.9	29.4	-19.5	170
丹波	20.0	41.0	-21.0	106
淡路	4.1	9.6	-5.5	135
奈良県	37.1	39.4	-2.3	1,364
奈良	36.2	32.8	3.4	360
東和	46.6	50.7	-4.1	210
西和	38.3	41.7	-3.4	346
中和	34.0	30.9	3.1	376
南和	21.8	60.0	-38.2	73
和歌山県	21.4	24.0	-2.6	964
和歌山	21.3	14.9	6.4	425
那賀	35.0	39.4	-4.4	116
橋本	18.8	37.9	-19.1	88
有田	29.1	39.7	-10.6	74
御坊	25.9	29.0	-3.1	64
田辺	11.0	17.6	-6.6	128
新宮	16.8	27.1	-10.3	68
鳥取県	10.4	6.5	3.9	573
東部	8.9	4.3	4.6	233
中部	7.2	12.9	-5.7	104
西部	13.2	5.3	7.9	237
島根県	17.5	21.4	-3.9	694
松江	18.6	10.3	8.3	246
雲南	3.4	41.8	-38.4	57
出雲	26.0	10.6	15.4	172
大田	8.4	44.9	-36.5	55
浜田	16.0	22.8	-6.8	83
益田	9.9	22.5	-12.6	62
隠岐	-	56.4	-	21
岡山県	14.8	13.3	1.5	1,922
県南東部	15.6	8.3	7.3	922
県南西部	16.3	14.0	2.3	707
高梁・新見	12.7	34.7	-22.0	63
真庭	19.3	28.7	-9.4	47
津山・英田	5.3	17.6	-12.3	182
広島県	17.2	15.5	1.7	2,844
広島	14.7	10.9	3.8	1,365
広島西	41.1	30.3	10.8	143
呉	13.5	17.2	-3.7	253
広島中央	28.4	25.1	3.3	227
尾三	13.6	16.9	-3.3	251
福山・府中	14.1	11.5	2.6	514
備北	11.3	24.3	-13.0	91
山口県	15.0	16.9	-1.9	1,405
岩国	15.2	32.4	-17.2	143
柳井	34.3	29.6	4.7	81
周南	12.8	17.5	-4.7	252
山口・防府	15.3	14.2	1.1	313
宇部・小野田	17.5	9.7	7.8	258
下関	5.1	7.6	-2.5	269
長門	18.3	19.5	-1.2	35
萩	9.7	33.1	-23.4	53

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
徳島県	16.8	16.2	0.6	756
東部	17.8	7.0	10.8	527
南部	18.7	37.3	-18.6	148
西部	9.2	25.8	-16.6	81
香川県	19.9	20.6	-0.7	976
大川	18.0	55.4	-37.4	81
小豆	1.7	30.1	-28.4	29
高松	21.5	12.0	9.5	452
中讃	21.8	16.6	5.2	290
三豊	14.9	28.5	-13.6	125
愛媛県	13.2	14.4	-1.2	1,385
宇摩	9.6	29.1	-19.5	87
新居浜・西条	7.2	17.6	-10.4	228
今治	5.3	23.0	-17.7	165
松山	19.7	2.3	17.4	646
八幡浜・大洲	3.7	25.3	-21.6	144
宇和島	14.8	16.5	-1.7	114
高知県	9.1	9.6	-0.5	728
安芸	15.3	33.2	-17.9	48
中央	9.1	2.2	6.9	537
高幡	10.6	44.7	-34.1	56
幡多	5.0	14.6	-9.6	87
福岡県	21.2	19.9	1.3	5,102
福岡・糸島	21.6	13.1	8.5	1,635
粕屋	37.7	35.1	2.6	284
宗像	30.5	32.7	-2.2	155
筑紫	31.0	40.6	-9.6	434
朝倉	21.8	35.7	-13.9	84
久留米	31.5	21.7	9.8	456
八女・筑後	24.6	29.3	-4.7	133
有明	17.9	19.7	-1.8	223
飯塚	25.6	22.9	2.7	181
直方・鞍手	24.9	38.8	-13.9	109
田川	22.6	28.6	-6.0	126
北九州	8.3	7.0	1.3	1,097
京築	19.5	31.9	-12.4	184
佐賀県	22.6	19.7	2.9	833
中部	18.1	14.9	3.2	349
東部	46.4	31.3	15.1	125
北部	7.7	14.6	-6.9	129
西部	21.0	33.8	-12.8	75
南部	22.8	17.8	5.0	155
長崎県	11.6	14.0	-2.4	1,377
長崎	7.1	6.5	0.6	531
佐世保県北	9.2	11.5	-2.3	324
県央	27.1	13.8	13.3	268
県南	7.1	29.1	-22.0	136
五島	2.0	33.7	-31.7	37
上五島	2.4	50.0	-47.6	22
壱岐	-	43.9	-	27
対馬	0.8	38.5	-37.7	31
熊本県	25.2	25.3	-0.1	1,786
熊本	32.0	11.7	20.3	741
宇城	44.6	53.5	-8.9	107
有明	9.8	35.1	-25.3	161
鹿本	16.5	33.8	-17.3	52
菊池	36.9	33.0	3.9	181
阿蘇	10.7	43.5	-32.8	64
上益城	43.0	59.4	-16.4	86
八代	13.5	21.1	-7.6	139
芦北	16.1	23.1	-7.0	48
球磨	5.1	13.8	-8.7	89
天草	4.1	19.5	-15.4	117
大分県	16.5	17.6	-1.1	1,166
東部	22.8	12.1	10.7	211
中部	16.7	7.0	9.7	569
南部	6.3	24.4	-18.1	72
豊肥	4.4	38.7	-34.3	59
西部	13.2	32.6	-19.4	92
北部	14.2	32.0	-17.8	163

	推計流入 患者割合(%)	推計流出 患者割合(%)	差分(%)	人口 (千人)
宮崎県	15.5	15.0	0.5	1,104
宮崎東諸県	18.9	5.8	13.1	428
都城北諸県	22.7	13.4	9.3	190
延岡西臼杵	7.8	15.1	-7.3	146
日南串間	9.1	11.4	-2.3	73
西諸	7.9	23.1	-15.2	75
西都児湯	12.9	40.6	-27.7	102
日向入郷	14.9	18.9	-4.0	90
鹿児島県	15.2	16.7	-1.5	1,648
鹿児島	21.0	6.5	14.5	680
南薩	9.9	18.3	-8.4	136
川薩	11.2	26.1	-14.9	118
出水	5.2	23.4	-18.2	85
姶良・伊佐	18.5	13.7	4.8	238
曾於	10.5	56.2	-45.7	81
肝属	11.3	20.9	-9.6	157
熊毛	1.3	31.9	-30.6	43
奄美	0.6	16.5	-15.9	110
沖縄県	14.5	14.1	0.4	1,434
北部	4.5	24.8	-20.3	101
中部	16.6	16.7	-0.1	499
南部	16.1	8.4	7.7	727
宮古	1.9	17.3	-15.4	52
八重山	1.5	31.2	-29.7	53

出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」（2019 年 3 月 1 日）、総務省「平成 27 年国勢調査」（2016 年 10 月 26 日）を基に加工。

(5) 秋田県における分析事例

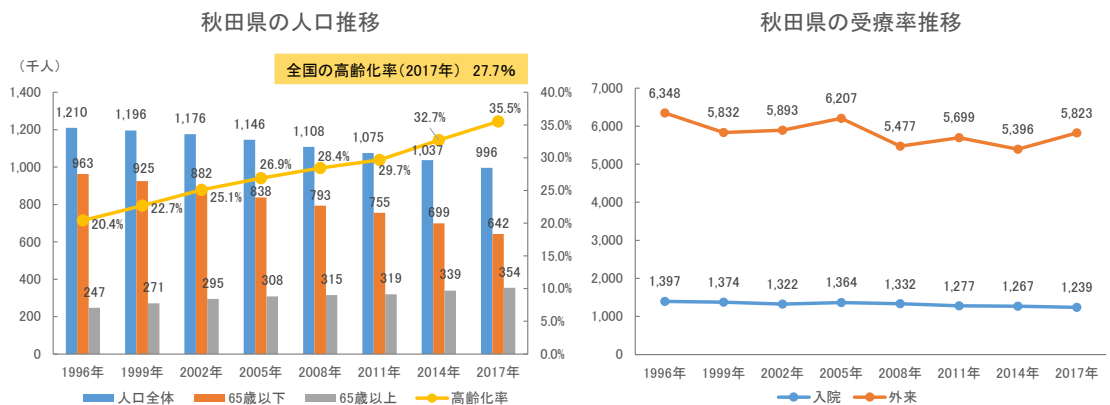
以下では、最も高齢化率が高い秋田県を取り上げ、患者数の推移をみていく。

ア 秋田県の人口と受療率推移

秋田県の人口構造を全国と比較すると、65歳以下は▲33.3%と減少率が高く、それに伴い、県全体の人口も▲17.7%の減少となっている。結果的に、県全体に占める65歳以上の比率が高くなった結果、全国で最も高い高齢化率となっていることがわかる。

(P. 4の表を参照)

秋田県の受療率の増減は、入院が▲11.3%、外来も▲8.3%と減少している。全国平均と比較すると、外来は減少幅が少し大きいものの、概ね共通の推移といえる。



■ 秋田県の人口推移

(単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率)

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
人口全体	1,210	1,196	1,176	1,146	1,108	1,075	1,037	996 (-17.7%)
65歳以下	963	925	882	838	793	755	699	642 (-33.3%)
65歳以上	247	271	295	308	315	319	339	354 (43.3%)

【参考】全国

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
人口全体	125,864	126,686	127,435	127,768	127,692	127,799	127,083	126,706 (0.7%)
65歳以下	106,847	105,500	103,808	102,007	99,476	98,047	94,083	91,554 (-14.3%)
65歳以上	19,017	21,186	23,628	25,761	28,216	29,752	33,000	35,152 (84.8%)

■ 秋田県の受療率推移

(カッコは1996年と比較した増減率)

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
入院	1,397	1,374	1,322	1,364	1,332	1,277	1,267	1,239 (-11.3%)
外来	6,348	5,832	5,893	6,207	5,477	5,699	5,396	5,823 (-8.3%)

【参考】全国

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
入院	1,176	1,170	1,139	1,145	1,090	1,068	1,038	1,036 (-11.9%)
外来	5,824	5,396	5,083	5,551	5,376	5,784	5,696	5,675 (-2.6%)

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）、総務省「平成27年国勢調査」（2016年10月26日）を基に加工。

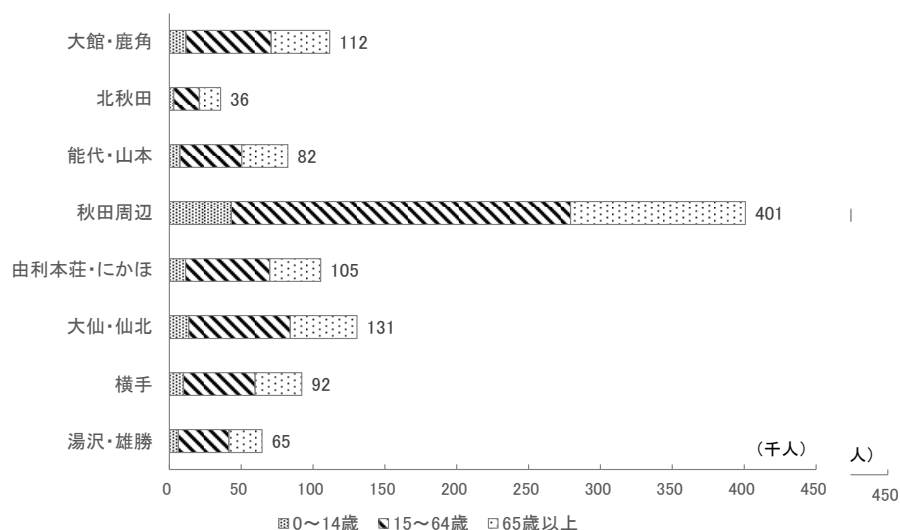
イ 二次医療圏ごとの人口と入院患者数

二次医療圏における人口規模は、秋田周辺医療圏が最も多く 401 千人、次いで大山・仙北医療圏が 131 千人となっている。

また、2017 年における 1 日あたりの入院患者数（病院）は、秋田県全体で 12.0 千人となり、1996 年と比較すると、▲24.5%の患者減となっている。

二次医療圏別の増減率をみると、最も減少しているのは北秋田医療圏▲50.0%、次いで同率で能代・山本医療圏、大仙・仙北医療圏、湯沢・雄勝医療圏の▲37.5%となっている。

二次医療圏ごとの人口分布

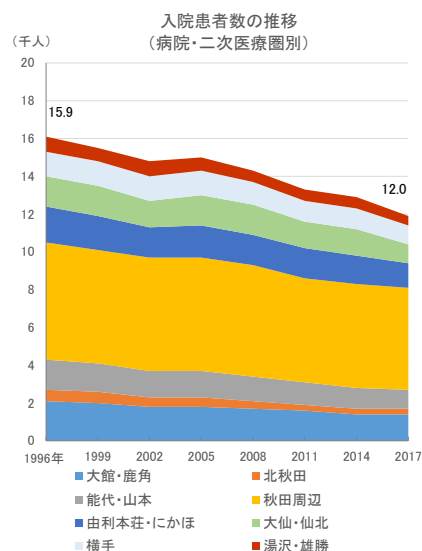


■ 一日あたり入院患者数（病院・二次医療圏別）

(単位: 千人、カッコは1993年と比較した増減率)

二次医療圏	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
大館・鹿角	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7	1.6	1.4	1.4 (-33.3%)
北秋田	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3 (-50.0%)
能代・山本	1.6	1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0 (-37.5%)
秋田周辺	6.2	6.0	6.0	6.0	5.9	5.5	5.5	5.4 (-12.9%)
由利本荘・にかほ	1.9	1.8	1.6	1.7	1.6	1.6	1.5	1.3 (-31.6%)
大仙・仙北	1.6	1.6	1.4	1.6	1.6	1.4	1.4	1.0 (-37.5%)
横手	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.1	1.0 (-23.1%)
湯沢・雄勝	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5 (-37.5%)
秋田県全体	15.9	15.6	14.8	15.0	14.3	13.3	12.9	12.0 (-24.5%)

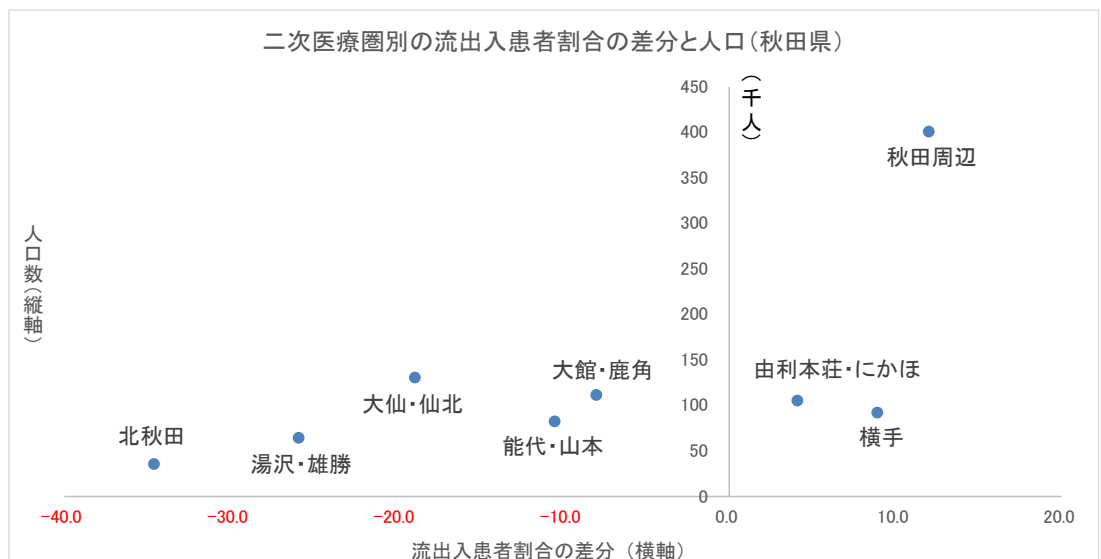
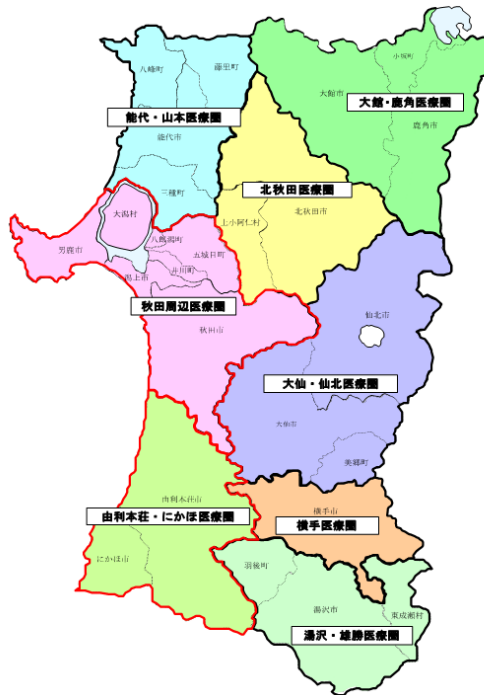
※ データは病院における入院患者のみ



出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）、総務省「平成 27 年国勢調査」（2016 年 10 月 26 日）を基に加工。

二次医療圏別の傾向をみると、秋田県内で最も人口が多い秋田周辺医療圏では流入が多くなっている。一方で、北秋田医療圏、湯沢・雄勝医療圏、大山・仙北医療圏、能代・山本医療圏、大館・鹿角医療圏では、流出が多くなっている。

都道府県内で最も人口が多く、医療資源が豊富で県庁所在地が存在している二次医療圏などで流入過多となるのは全国的な傾向であるといえよう。

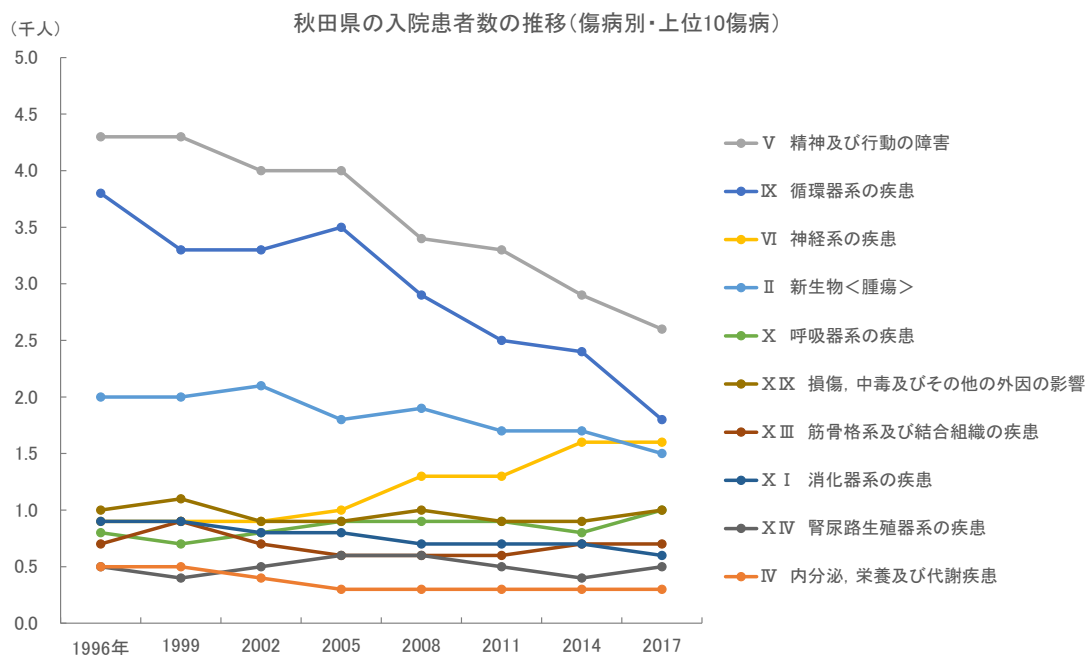


出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」(2019 年 3 月 1 日)、総務省「平成 27 年国勢調査」(2016 年 10 月 26 日)、秋田県「医療保健福祉計画」(2018 年 4 月)を基に加工。

ウ 入院患者数の推移（傷病分類別）

秋田県の入院患者数の推移において、「Ⅴ 精神及び行動の障害」、「Ⅸ 循環器系の疾患」では大幅に減少しており、その減少幅は全国のものと比較しても大きくなっている。

一方、「Ⅵ 神経系の疾患」においては、急速に増加傾向を示している。秋田県では、高齢者化率が高いこともあり、全疾患に占める高齢者特有の疾患の割合が高く示されることが示唆される。（「Ⅵ 神経系の疾患」には、アルツハイマー病、パーキンソン病、自律神経系の障害等が含まれる。）



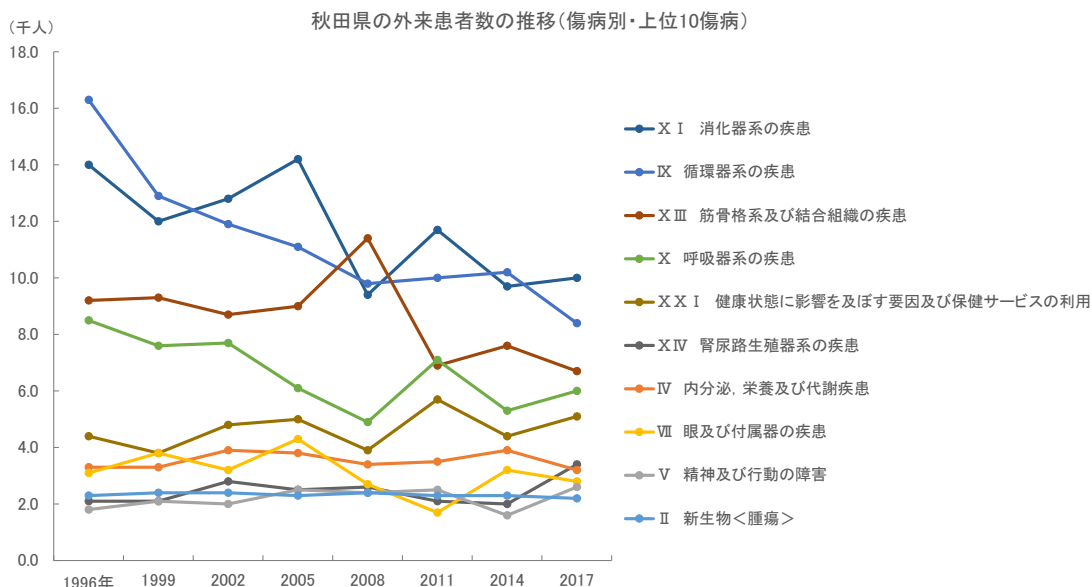
(単位:千人)

傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	16.8	16.3	15.5	15.7	14.7	13.7	13.2	12.3
Ⅰ 感染症及び寄生虫症	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2
Ⅱ 新生物＜腫瘍＞	2.0	2.0	2.1	1.8	1.9	1.7	1.7	1.5
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
Ⅴ 精神及び行動の障害	4.3	4.3	4.0	4.0	3.4	3.3	2.9	2.6
Ⅵ 神経系の疾患	0.9	0.9	0.9	1.0	1.3	1.3	1.6	1.6
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0
Ⅷ 耳及び乳突突起の疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Ⅸ 循環器系の疾患	3.8	3.3	3.3	3.5	2.9	2.5	2.4	1.8
Ⅹ 呼吸器系の疾患	0.8	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8	1.0
ⅩⅠ 消化器系の疾患	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6
ⅩⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.7	0.9	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7
ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5
ⅩⅤ 妊娠、分娩及び産後	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
ⅩⅥ 周産期に発生した病態	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ⅩⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
ⅩⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.0	1.1	0.9	0.9	1.0	0.9	0.9	1.0
ⅩⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2016年）

エ 外来患者数の推移（傷病分類別）

秋田県の外来患者数の推移においては、外来患者数全体が減少していることもあり、多くの傷病で減少傾向にある。こういった状況の中で、増加傾向を示しているものとしては、「XIV 腎尿路生殖器系の疾患」（腎不全、尿路結石症、前立腺肥大症等が含まれる。）、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」（検査及び診査のための保健サービスが含まれる。）がある。



(単位:千人)

傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	76.8	69.7	70.7	71.2	61.4	61.9	56.9	58.7
I 感染症及び寄生虫症	1.8	1.6	1.9	1.9	1.5	1.1	0.9	1.3
II 新生物＜腫瘍＞	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.3	2.3	2.2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	3.3	3.3	3.9	3.8	3.4	3.5	3.9	3.2
V 精神及び行動の障害	1.8	2.1	2.0	2.5	2.4	2.5	1.6	2.6
VI 神経系の疾患	1.5	1.3	1.3	1.7	1.2	1.5	1.2	1.6
VII 眼及び付属器の疾患	3.1	3.8	3.2	4.3	2.7	1.7	3.2	2.8
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1.2	1.1	0.9	0.7	0.6	0.8	0.7	0.8
IX 循環器系の疾患	16.3	12.9	11.9	11.1	9.8	10.0	10.2	8.4
X 呼吸器系の疾患	8.5	7.6	7.7	6.1	4.9	7.1	5.3	6.0
XI 消化器系の疾患	14.0	12.0	12.8	14.2	9.4	11.7	9.7	10.0
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	3.1	2.7	3.1	2.9	1.9	2.1	1.4	2.1
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	9.2	9.3	8.7	9.0	11.4	6.9	7.6	6.7
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	2.1	2.1	2.8	2.5	2.6	2.1	2.0	3.4
XV 妊娠、分娩及び産じょく	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
XVI 周産期に発生した病態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.4	2.3	2.1	1.9	2.1	1.6	1.5	1.5
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4.4	3.8	4.8	5.0	3.9	5.7	4.4	5.1

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

(6) 東京都における分析事例

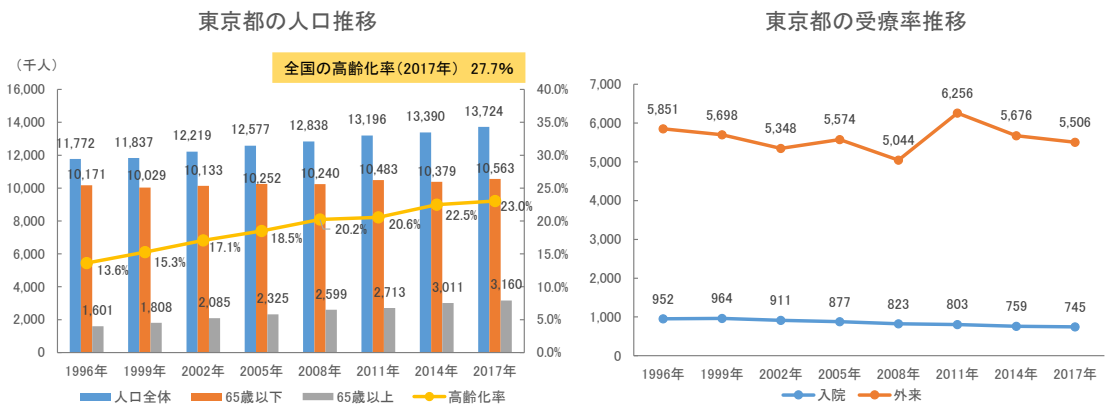
続いて、最も患者数が多い東京都を取り上げ、患者数の推移をみてみることにする。

ア 東京都の人口と受療率推移

東京都の人口構造を全国と比較すると、65 歳以下は 3.9%、65 歳以上は 97.4%の増加となり、それに伴い、東京都全体の人口も 16.6%の増加となっている。これは全国の傾向とも異なる。

高齢者の増加率は全国平均よりも高いが、65 歳以下も増加していることから、高齢化率は全国で 2 番目に低い結果となっている。

受療率の増減については、入院・外来ともに全国平均よりも減少しており、特に入院については▲21.7%と減少幅が大きい。



■ 東京都の人口推移

(単位：千人、カッコは1996年と比較した増減率)

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	
人口全体	11,772	11,837	12,219	12,577	12,838	13,196	13,390	13,724	(16.6%)
65歳以下	10,171	10,029	10,133	10,252	10,240	10,483	10,379	10,563	(3.9%)
65歳以上	1,601	1,808	2,085	2,325	2,599	2,713	3,011	3,160	(97.4%)

【参考】全国

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	
人口全体	125,864	126,686	127,435	127,768	127,692	127,799	127,083	126,706	(0.7%)
65歳以下	106,847	105,500	103,808	102,007	99,476	98,047	94,083	91,554	(-14.3%)
65歳以上	19,017	21,186	23,628	25,761	28,216	29,752	33,000	35,152	(84.8%)

■ 東京都の受療率推移

(カッコは1996年と比較した増減率)

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	
入院	952	964	911	877	823	803	759	745	(-21.7%)
外来	5,851	5,698	5,348	5,574	5,044	6,256	5,676	5,506	(-5.9%)

【参考】全国

	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	
入院	1,176	1,170	1,139	1,145	1,090	1,068	1,038	1,036	(-11.9%)
外来	5,824	5,396	5,083	5,551	5,376	5,784	5,696	5,675	(-2.6%)

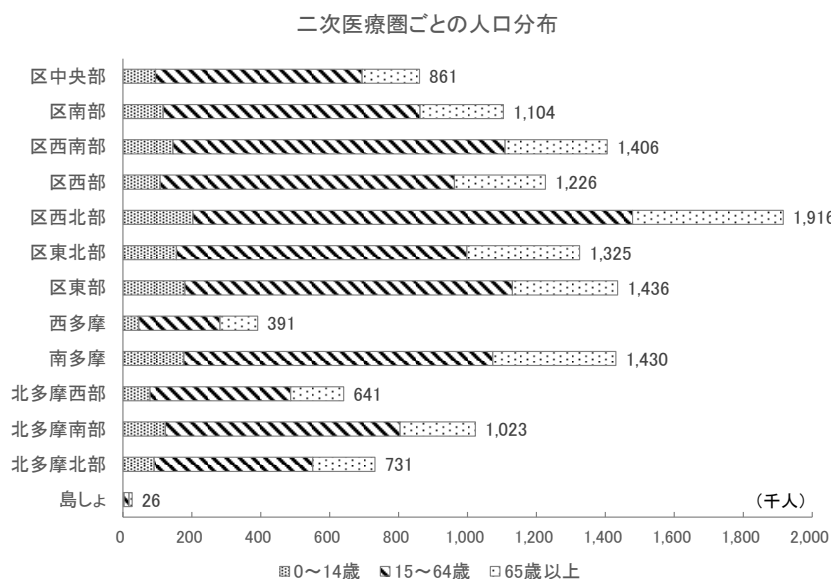
出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）、総務省「平成 27 年国勢調査」（2016 年 10 月 26 日）を基に加工。

イ 二次医療圏ごとの人口と入院患者数

二次医療圏における人口規模としては、区西北部医療圏が最も多く 1,916 千人、次いで区東部医療圏が 1,436 千人となっている。

また、2017 年における 1 日あたりの入院患者数（病院）は、東京都全体で 102.6 千人となり、1996 年と比較すると、▲5.6% の患者減となっている。

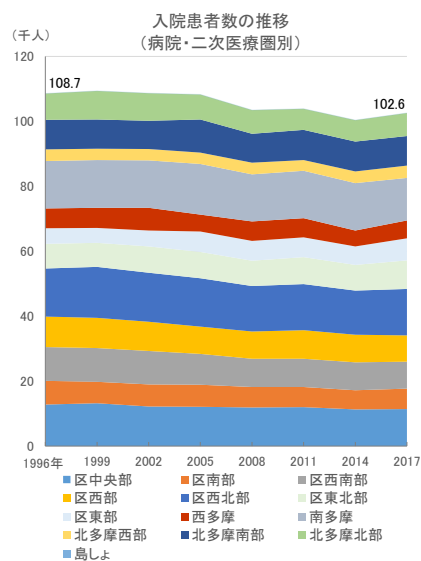
二次医療圏別の増減率をみると、最も増加しているのは区東部医療圏 41.7%、次いで区東北部医療圏の 15.8% となっている。一方、最も減少しているのは、区西南部医療圏で▲20.2% となっている。



■ 一日あたり入院患者数（病院・二次医療圏別）

(単位: 千人、カッコは1993年と比較した増減率)

二次医療圏	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
区中央部	12.8	13.2	12.2	12.1	11.9	12.0	11.3	11.4 (-10.9%)
区南部	7.3	6.6	6.8	6.8	6.3	6.2	5.9	6.3 (-13.7%)
区西南部	10.4	10.4	10.3	9.5	8.7	8.7	8.6	8.3 (-20.2%)
区西部	9.4	9.3	9.0	8.4	8.4	8.8	8.5	8.1 (-13.8%)
区西北部	14.8	15.7	15.1	14.9	14.0	14.2	13.6	14.3 (-3.4%)
区東北部	7.6	7.4	8.1	8.1	7.8	8.3	7.9	8.8 (15.8%)
区東部	4.8	4.6	4.9	6.3	6.1	6.1	5.7	6.8 (41.7%)
西多摩	6.1	6.2	7.0	5.2	6.0	5.9	4.9	5.5 (-9.8%)
南多摩	14.6	14.7	14.6	15.6	14.5	14.6	14.6	13.1 (-10.3%)
北多摩西部	3.6	3.5	3.5	3.5	3.6	3.3	3.6	3.8 (5.6%)
北多摩南部	9.1	9.0	8.7	10.2	8.9	9.3	9.2	9.1 (0.0%)
北多摩北部	8.1	8.8	8.5	7.7	7.3	6.5	6.6	7.1 (-12.3%)
島しょ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 -
東京都全体	108.7	109.3	108.9	108.4	103.5	103.9	100.4	102.6 (-5.6%)

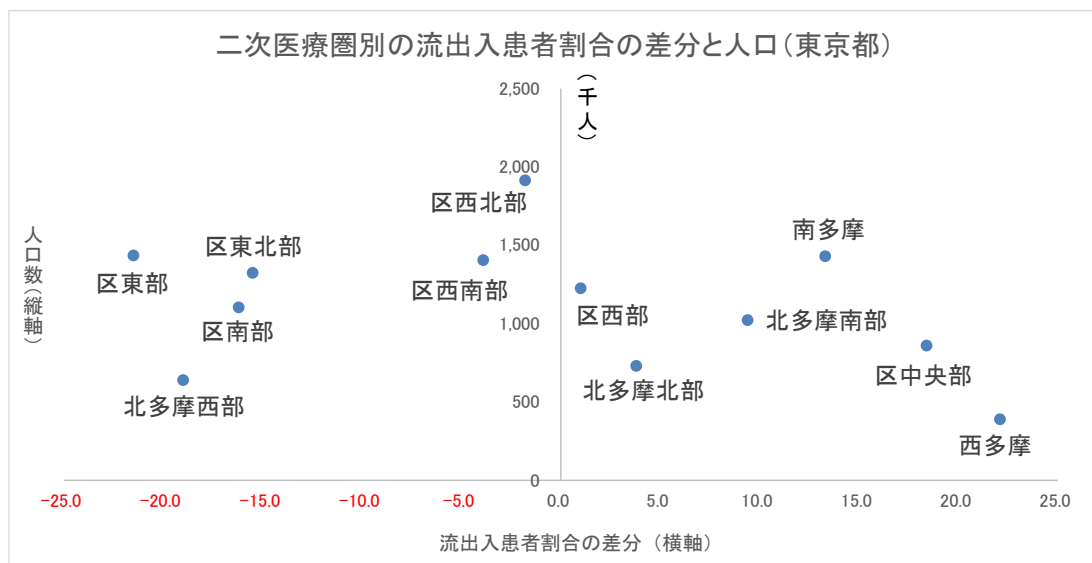
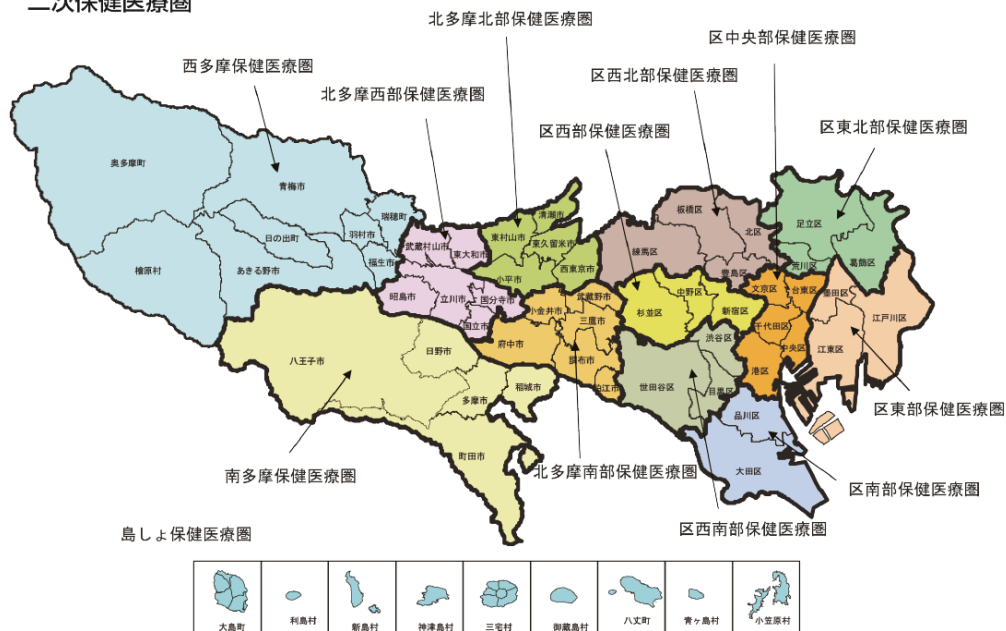


出典：厚生労働省「患者調査」（1996 年～2017 年）、総務省「平成 27 年国勢調査」（2016 年 10 月 26 日）を基に加工。

東京都の二次医療圏別の流出入者割合をみると、最も流出しているのは区東部医療圏（人口1,436千人）で▲21.5%である。人口規模に関わらず、二次医療圏ごとの流出入が存在しており、西多摩医療圏、南多摩医療圏、北多摩南部医療圏、北多摩北部医療圏などの多摩エリアにおいて患者の流入が高い傾向にあった。

なお、東京都においては、他の地方都市と比べ、医療機関数も高く、医療資源の偏在が少ないため、人口が多い医療圏でも流入過多の傾向は見られなかった。

二次保健医療圏

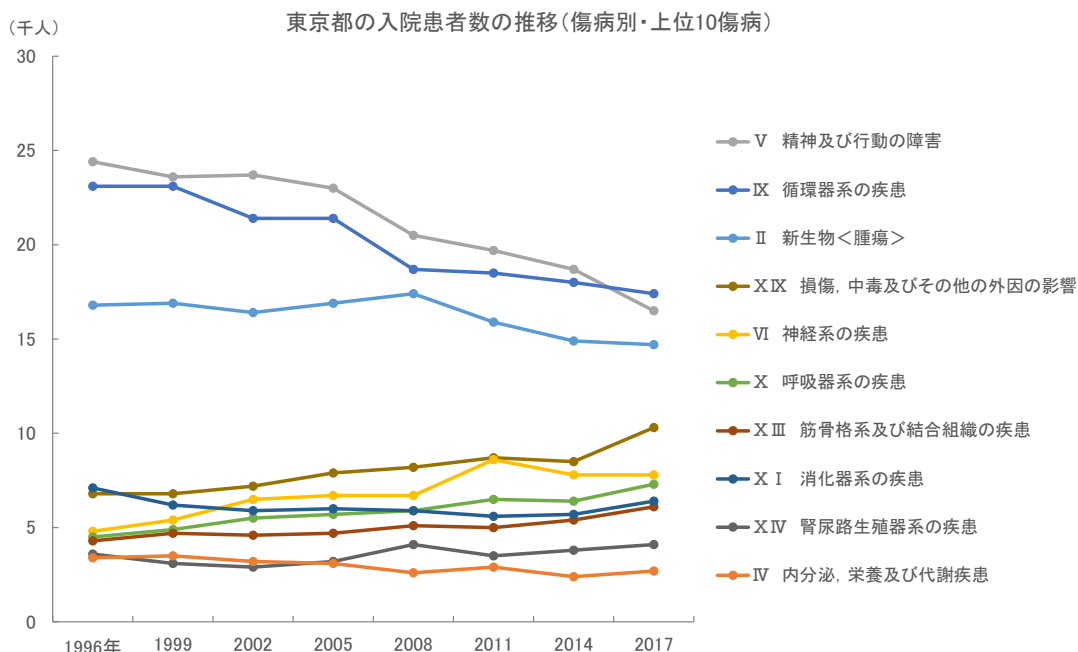


出典：厚生労働省「平成29年患者調査」（2019年3月1日）、総務省「平成27年国勢調査」（2016年10月26日）、東京都「保健医療計画」（2018年3月）を基に加工。

ウ 入院患者数の推移（傷病分類別）

入院患者数の推移をみると、「Ⅴ 精神及び行動の障害」、「Ⅸ 循環器系の疾患」は大幅な減少傾向にあり、また「ⅩⅠ 消化器系の疾患」、「Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患」等は、ほぼ横ばい傾向となっている。全国の疾患構造とほぼ同様の傾向であった。

一方、「ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患」、「ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患」については増加傾向であることがわかる。



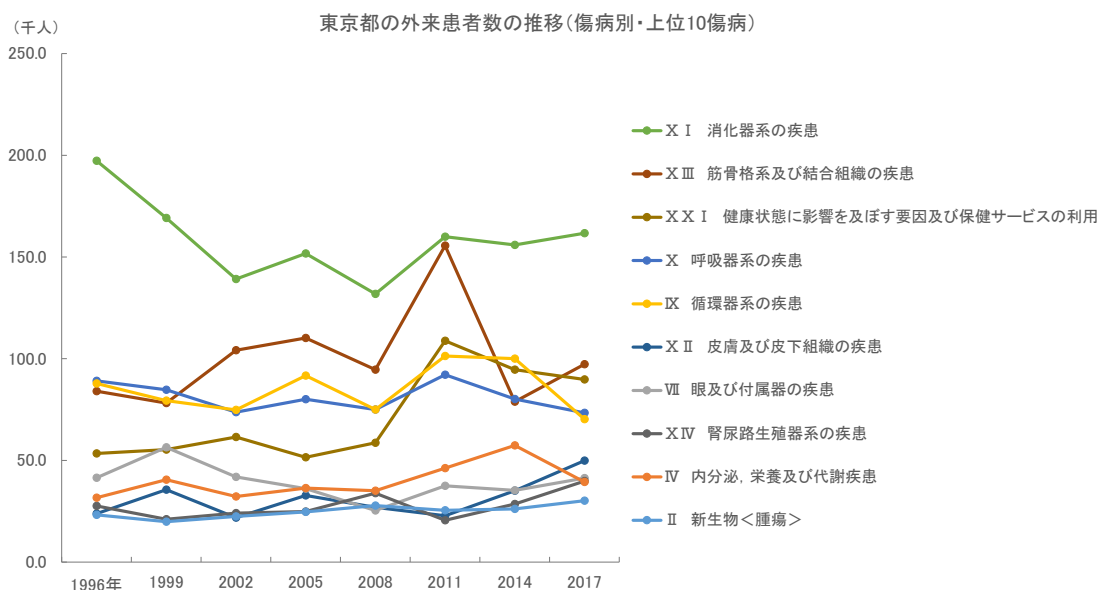
(単位:千人)

傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	111.5	111.8	110.0	110.0	105.1	105.2	101.9	104.0
I 感染症及び寄生虫症	2.8	3.4	3.0	2.6	2.1	2.3	2.0	2.1
II 新生物＜腫瘍＞	16.8	16.9	16.4	16.9	17.4	15.9	14.9	14.7
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.6	0.5	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.5
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	3.4	3.5	3.2	3.1	2.6	2.9	2.4	2.7
V 精神及び行動の障害	24.4	23.6	23.7	23.0	20.5	19.7	18.7	16.5
VI 神経系の疾患	4.8	5.4	6.5	6.7	6.7	8.6	7.8	7.8
VII 眼及び付属器の疾患	1.4	1.3	1.1	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2
VIII 耳及び乳突突起の疾患	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2
IX 循環器系の疾患	23.1	23.1	21.4	21.4	18.7	18.5	18.0	17.4
X 呼吸器系の疾患	4.5	4.9	5.5	5.7	5.9	6.5	6.4	7.3
XⅠ 消化器系の疾患	7.1	6.2	5.9	6.0	5.9	5.6	5.7	6.4
XⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	1.1	0.8	0.8
XⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	4.3	4.7	4.6	4.7	5.1	5.0	5.4	6.1
XⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	3.6	3.1	2.9	3.2	4.1	3.5	3.8	4.1
XⅤ 妊娠、分娩及び産後	2.2	2.4	2.9	1.9	1.8	1.4	1.6	1.6
XⅥ 周産期に発生した病態	0.7	0.6	0.7	0.8	0.6	0.7	0.7	0.8
XⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7
XⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.2	2.8	1.8	2.2	1.5	1.6	1.4	1.2
XⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	6.8	6.8	7.2	7.9	8.2	8.7	8.5	10.3
XⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.4	0.9	0.9	0.7	0.6	0.6	1.2	1.4

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2016年）

エ 外来患者数の推移（傷病分類別）

外来患者数の推移をみると、東京都では、「X I 消化器系の疾患」、「X 呼吸器系の疾患」、「IX 循環器系の疾患」を除くと、その他は増加傾向のものが多く、外来患者の総数としても増加傾向にある。



(単位:千人)

傷病大分類	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
総数	763.2	744.5	720.7	753.7	707.4	880.4	841.3	810.4
I 感染症及び寄生虫症	18.2	23.8	22.1	23.9	19.7	17.9	19.5	21.2
II 新生物＜腫瘍＞	23.2	19.9	22.5	24.7	27.8	25.5	26.2	30.2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.9	2.2	2.3	2.4	2.5	2.3	2.6	2.7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	31.7	40.5	32.3	36.4	35.1	46.2	57.4	39.4
V 精神及び行動の障害	22.6	16	40.4	23.9	27	18.7	49.9	25.4
VI 神経系の疾患	10.3	9.9	10.2	16.7	16.2	15.4	28.6	16.9
VII 眼及び付属器の疾患	41.5	56.4	41.9	36.1	25.4	37.5	35.3	41.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	15.5	14.6	12.2	10.4	14.2	9.1	9.3	8.6
IX 循環器系の疾患	87.8	79.4	74.8	91.7	75	101.3	100	70.3
X 呼吸器系の疾患	89.1	84.7	73.7	80.1	75	92.1	80.2	73.4
X I 消化器系の疾患	197.3	169.2	139.2	151.7	131.9	160	155.9	161.7
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	23.8	35.6	21.9	32.8	26.9	22.8	35.1	49.9
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	84	78.2	104.2	110.2	94.6	155.6	78.9	97.3
X IV 腎尿路生殖系系の疾患	27.6	21.1	24.1	24.9	33.9	20.6	28.6	39.8
X V 妊娠、分娩及び産じょく	2.1	1.7	2.2	0.6	1	0.7	1.5	1.6
X VI 周産期に発生した病態	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.9	1.2	1	1.2	2.3	1.8	3.1	1.8
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9.4	8.1	8	8.9	10	9.9	8.8	10.3
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	22	26.4	25.9	25.2	29.6	34	25.8	28.6
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	53.4	55.3	61.5	51.5	58.7	108.8	94.6	89.8

出典：厚生労働省「患者調査」（1996年～2017年）

(7) 地域ごとの状況比較など

(5) で秋田県、(6) で東京都を取り上げたが、当然この他の 45 都道府県においても各々の特徴を有しており、単純比較は難しい。ただ高齢化率の高い秋田県と、人口が引き続き増加している東京都の比較においても幾つかの特徴が見受けられるため、P. 13 を引き継ぎつつ、特徴を見ておきたい。

- 受療率の低下幅は東京都が大きく上回るが、実際の 1 日あたり入院患者数の増減については秋田県の減少幅のほうが大きい。都道府県ごとにブレイクダウンをすると、人口の増減が患者数の増減に及ぼす要因が根本的には大きいことがわかる。
- 受療率の増減は、日本全体でみると高齢化率が高まる中で 65 歳以上の受療率が低下していることを踏まえ、特に入院患者数の増減に影響を及ぼしていることは推測されるが、その程度感は地域ごとに差があるものと推測される。
- 当然ながら傷病別の入院患者数推移も地域差は大きく、例えば「精神及び行動の障害」「循環器系の疾患」「神経系の疾患」などは増減幅も比較的大きいが、これについては医療行政の方向性や治療手法の変化なども大きく影響を及ぼすため、高齢化率の上昇が傷病構造の一部に影響を及ぼしているくらいのことしか言えないであろう。
- 一方、二次医療ごとの流入出でいうと、一極もしくは二極集中が進む比較的規模の小さい都道府県と、東京都のように多極的に流入がなされているエリアが存在する都道府県、という点では差がみられる。

本章は本質的には「高齢化の進展に伴い、医療需要は増加するかどうか」という点につき複合的に考察を行うための章であるが、ここまで見てきたデータなどをもとにすると、診療単価という側面は除き実際の患者数という観点でいえば、「人口全体の減少、65 歳以上の受療率の低下が今後についても一定の影響を及ぼし、またそのあり方が地域ごとに異なること」は推測しうるものである。

【参考文献】

- ・総務省「平成 27 年国勢調査」(2016 年 10 月 26 日)
- ・総務省「人口推計」(1996 年～2017 年)
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 29 年推計)」(2017 年 4 月 10 日)
- ・厚生労働省「患者調査」(1996 年～2017 年)

2 医療費動向から見る変化

(1) 医療費全体の動向

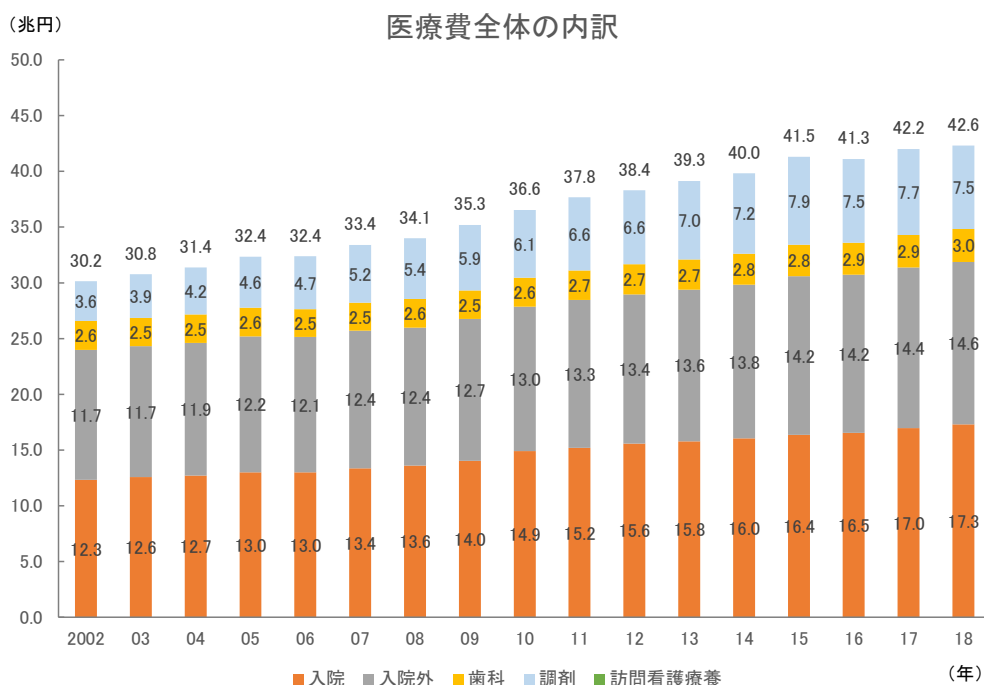
ア 医療費全体

2018 年度の医療費は約 42.6 兆円に達し、前年度と比較して約 0.4 兆円の増加となった。

2002 年から 2018 年にかけての推移をみると、医療費全体では約 12.4 兆円の増加であり、増減率は 41.1% 増となった。この内訳としては、入院医療費が約 5.0 兆円の増加（40.4% 増）、入院外医療費が約 2.9 兆円の増加（24.9% 増）、歯科医療費が約 0.4 兆円の増加（14.5% 増）、調剤医療費が約 3.9% の増加（109.5% 増）となっていた。（訪問看護療養費においては、2013 年からの集計となるため、増加額・伸び率ともに記載なし）

医療費における入院医療費の伸びは、高齢化による影響によるものが大きいと考えられるのに対し、入院外医療費については人口構造の変化による影響は小さいと考えられる。また、第 1 章で触れた全体の人口推移では 2010 年をピークに減少していることから、1 人あたりの医療費が増加しているといえる。

また、医療費に占める調剤医療費は大幅な増加傾向となり、高齢化による影響やバイオ医薬品等の高価な大型新薬の登場などが影響していると考えられる。



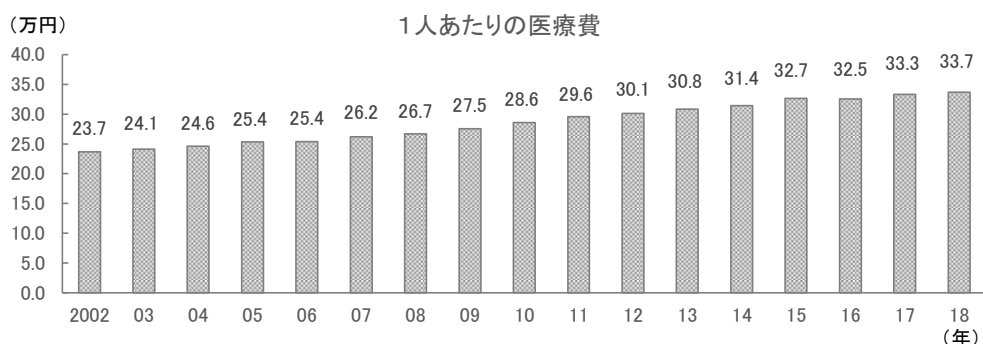
※1 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）で審査される診療報酬明細書のデータ（算定ベース：点数、費用額、件数及び日数）を集計している。点数を 10 倍したものを医療費として評価している。

※2 「医療保険適用」「75 歳未満」の「被用者保険」は、70 歳未満の者及び高齢受給者に係るデータであり、「本人」及び「家族」は、高齢受給者を除く 70 歳未満の者に係るデータである。

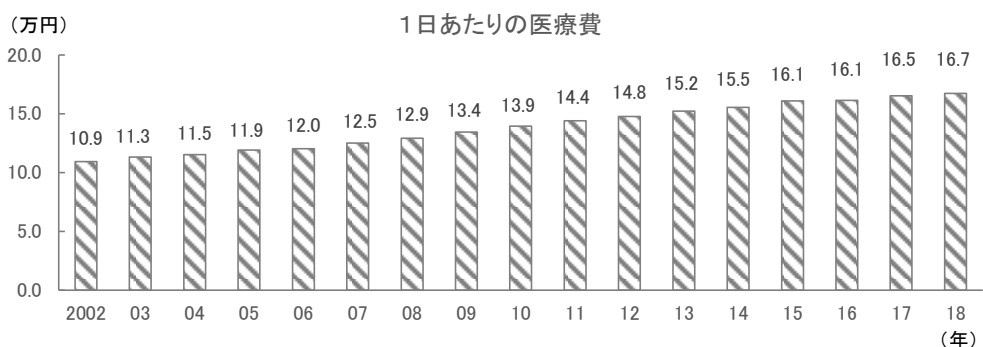
※3 「医療保険適用」の「75 歳以上」は後期高齢者医療の対象となる者に係るデータである。「公費」は医療保険適用との併用分を除く、生活保護などの公費負担のみのデータである。

出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002 年～2018 年度）

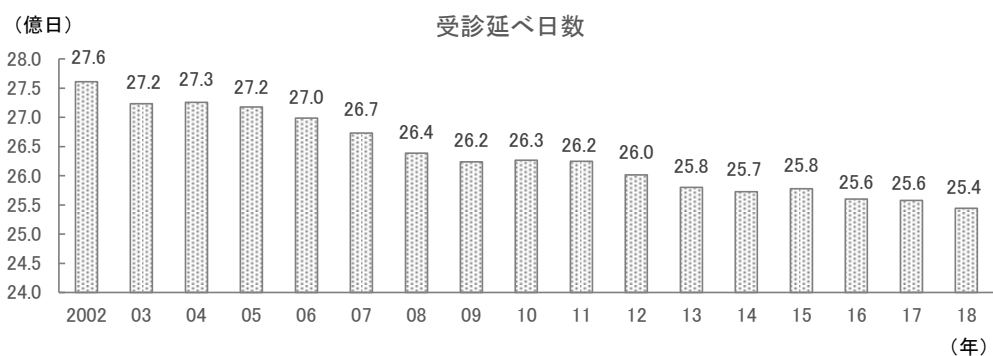
1人あたりの医療費は、2018年は約33.7万円となり、2002年と比較すると10.0万円増（42.2%増）で、大幅に上昇していることがわかる。第1章で触れたように、全体の人口は、2010年以降、減少しているが、医療費全体の上昇とともに1人あたりの医療費も一貫した増加を示している。



1日あたりの医療費（診療実日数あたりの医療費）は、2018年は約16.7万円で、2002年と比較すると5.8万円の増（53.2%増）と、右肩上がりの上昇を続けている。



受診延べ日数は、2018年は25.4億日となり、2002年と比較すると減少傾向にあり、▲2.2億日となっている。要因としては、近年の平均在院日数の大幅な短縮化が影響していると考えられる。近年は受療延べ日数は横ばい傾向にある。



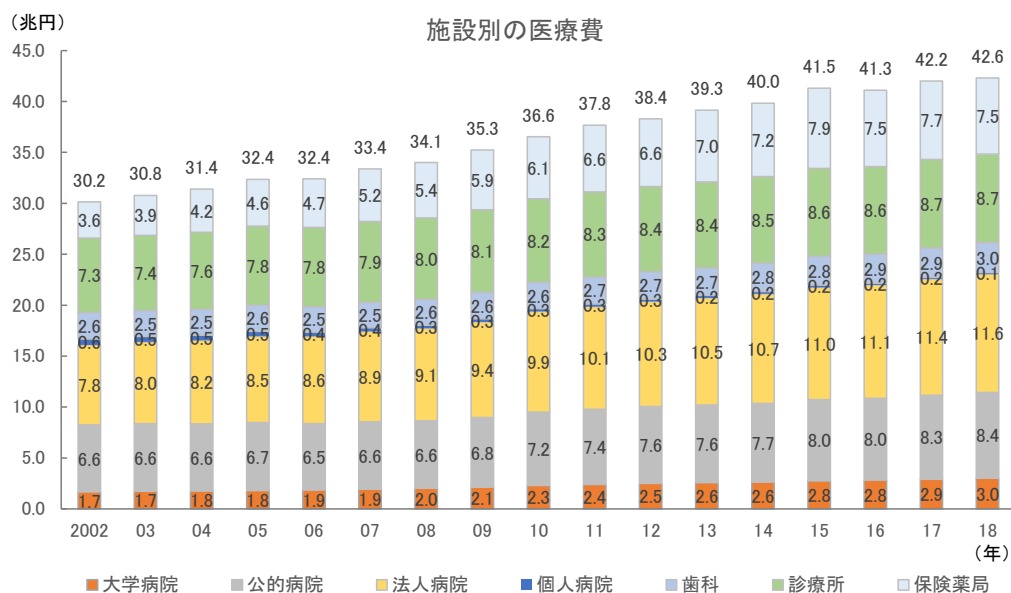
- ※1 診療実日数を取りまとめたものであり、訪問看護ステーションを含めている。
 ※2 診療報酬明細書に記録される診療実日数の総和である。

出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002年～2018年度）

イ 施設別の各指標

2018年度の医療費の施設別の内訳をみると、大学病院は約3.0兆円（2002年と2018年を比較した増減率：80.2%増、以下も同様の記載とする）、公的病院は約8.4兆円（28.3%増）、法人病院は約11.6兆円（48.0%増）、個人病院は約0.1兆円（▲77.3%）、歯科は約3.0兆円（14.5%増）、診療所は約8.7兆円（18.8%増）、保険薬局は約7.5兆円（109.5%増）となっており、保険薬局が最も増加していた。

病院・診療所のカテゴリーごとの比較においては、大学病院、法人病院、公的病院、診療所、個人病院の順で増加率が高くなっている。



※1 医科病院は、経営主体別に分類している。

※2 「大学病院」には、病院のうち、医育機関である医療機関を分類している。

※3 「公的病院」には、病院のうち、国（独立行政法人を含む）の開設する医療機関、公的医療機関（都道府県、市町村等）及び社会保険関係団体（全国社会保険協会連合会等）の開設する医療機関を分類している。ただし、医育機関を除く。

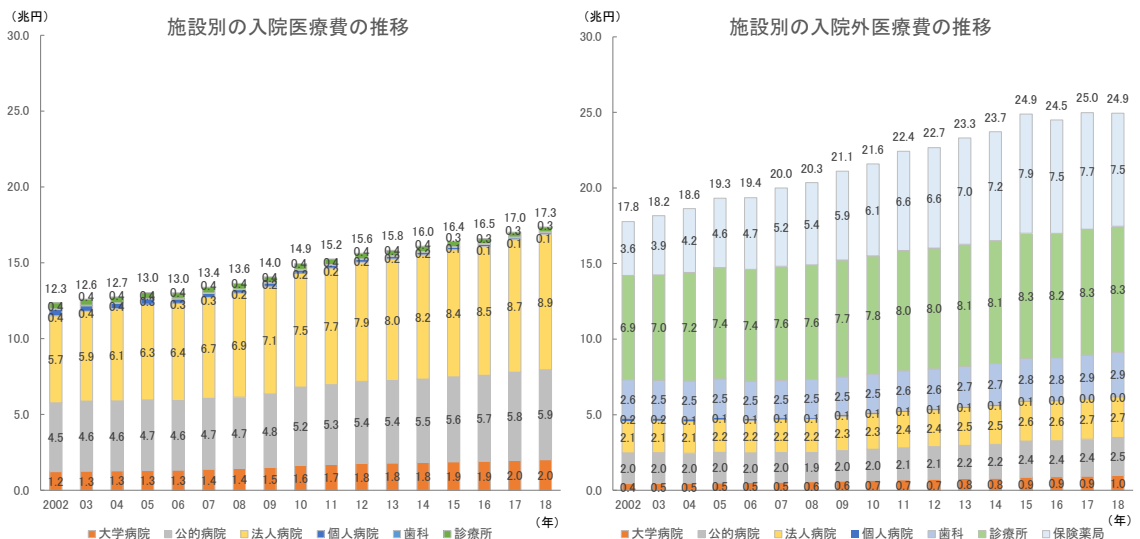
※4 医療費には、入院時食事療養の費用額及び入院時生活療養の費用額が含まれる。

出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002年～2018年度）

2018年度の入院医療費は約17.3兆円であり、2002年と比較した増減率は40.7%増と、2002年以降は一貫して増加を続けている。

施設別にみると、大学病院が約2.0兆円(64.6%増)、公的病院が約5.9兆円(30.6%増)、法人病院が約8.9兆円(55.7%増)、個人病院が約0.1兆円(▲76.2%)、診療所が約0.3兆円(▲21.0%)、歯科が約0.1兆円(63.7%増)となり、最も増加率が高かったのは大学病院であった。また、個人病院では、規模は小さいものの大幅な減少となっていた。

他方、入院外医療費については、2018年は全体で約24.9兆円(40.3%増)、施設別では大学病院が約1.0兆円(123.7%増)、公的病院が約2.5兆円(23.2%増)、法人病院が約2.7兆円(27.1%増)、個人病院が約368億円(▲79.8%)、歯科が約2.9兆円(13.8%増)、診療所が約8.3兆円(21.2%増)、保険薬局が約7.5兆円(109.5%増)となっており、額の多寡では診療所が最も大きいものの、増加率に関しては大学病院や保険薬局と比較して小さい値となっている。

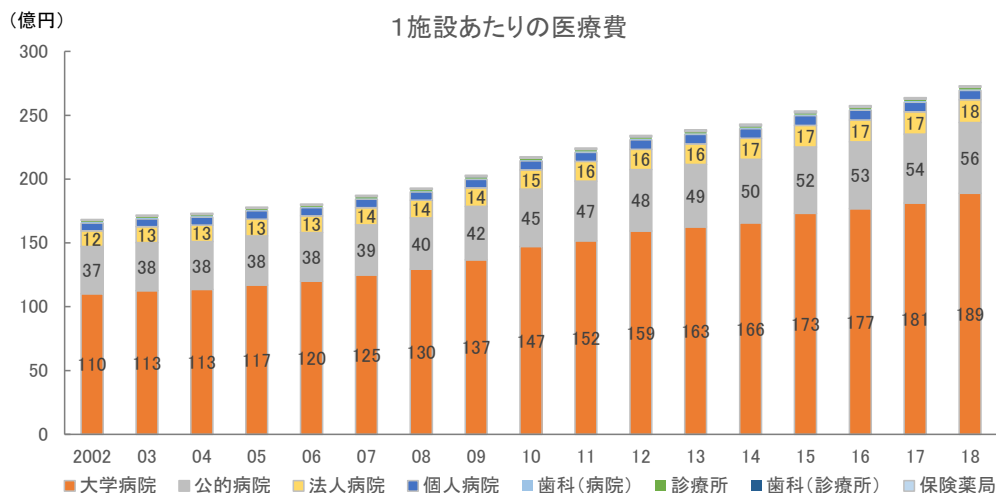


※ 入院医療費には、入院時食事療養の費用額及び入院時生活療養の費用額が含まれ、医科分は医科入院、歯科分は歯科へ含めている。

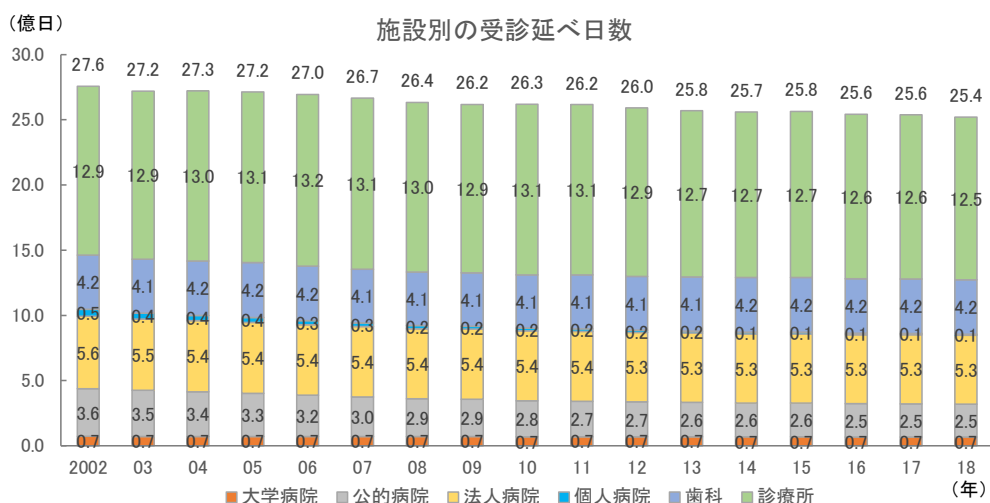
出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002年～2018年度）

1施設あたりの医療費は、医療費の高い順から大学病院が約189億円（71.6%増）、公的病院が約56億円（49.8%増）、法人病院が約18億円（43.8%増）、個人病院が約7億円（19.4%増）となっており、増加率が高い順も同様となっている。

医療費の増加率が最も高い大学病院においては、他の病院等と比較して、先進医療技術の導入や高額薬剤の上市の影響がより大きいと考えられる。



施設別の受療延べ日数は、大学病院0.7億日（2002年と2018年を比較した差分：▲0.05億日）、公的病院2.5億日（▲1.13億日）、法人病院5.3億日（▲0.29億日）、個人病院0.1億日（▲0.43億日）、歯科4.2億日（0.002億日）、診療所12.5億日（▲0.46億日）となり、歯科以外では全て日数が減少している。減少幅が最も大きかったのは公的病院である。



※ 医科及び歯科については診療報酬明細書に記録されている診療実日数の総和である。

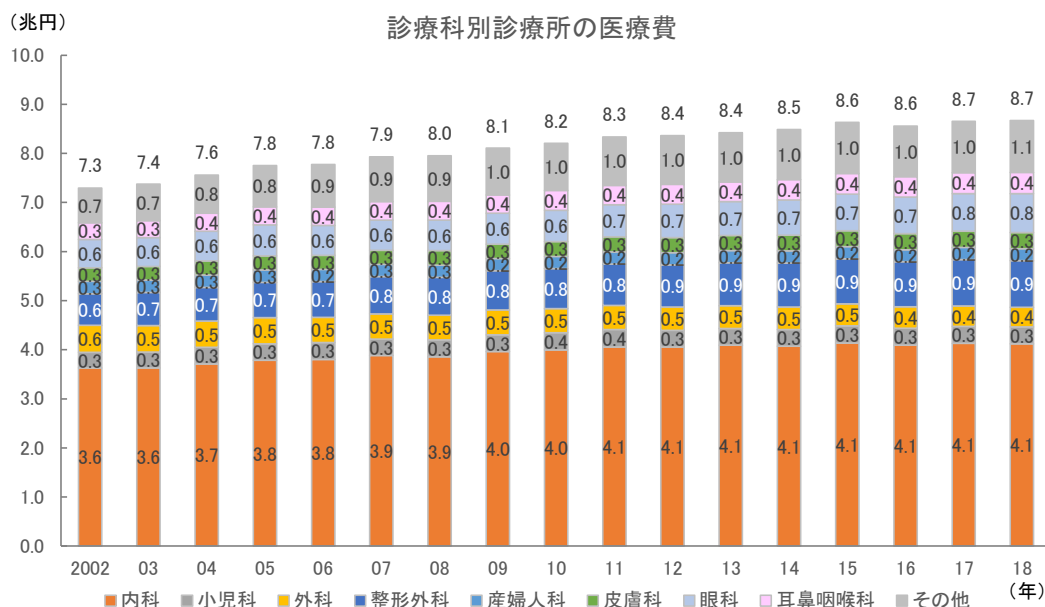
出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002年～2018年度）

診療科別診療所の医療費は、2018 年は内科が約 4.1 兆円（13.6%増）、小児科が約 0.3 兆円（7.1%増）、外科が約 0.4 兆円（▲27.6%）、整形外科が約 0.9 兆円（48.3%増）、産婦人科が約 0.2 兆円（▲5.6%）、皮膚科が約 0.3 兆円（22.6%増）、眼科が約 0.8 兆円（36.8%増）、耳鼻咽喉科が約 0.4 兆円（25.3%増）、その他が約 1.1 兆円（50.1%増）となっている。

その他を除く診療科で最も医療費が増加したのは、整形外科、次いで眼科となっており、高齢化による影響が大きいと考えられる診療科が上位にきている。

一方、最も医療費が減少したのは外科であり、要因としては医療技術の発展により外科的手術を回避できるような治療（放射線治療、化学療法等）が発達したことや大型新薬（バイオ医薬品、分子標的薬等）の登場などが考えられる。

第1章の「患者構造の変化」において、過去からの推移（1996 年から 2017 年）をみた中で、患者数、受療率ともに減少傾向にあることに着目すると、各科別診療所でも 1 人あたりの医療費が上昇していることが示唆される。



出典：厚生労働省「医療費の動向」（2002 年～2018 年度）

(2) 調剤医療費の動向

ア 調剤医療費

2018年度の調剤医療費は、約7.5兆円（対前年同期比は▲3.1%）であった。調剤医療費のうち薬剤料に係る部分は、2018年度は約5.5兆円であり、2009年と比較すると約1兆円の増加となっている。

また、その多くを占める内服薬について要素別の動向をみると、処方箋1枚あたりの薬剤種類数と薬剤料は若干の低下傾向であるのに対し、投薬日数は長くなっていることがわかる。

調剤医療費の技術料は、2018年度に約1.9兆円となり、2009年と比較すると約4,771億円の増加（32.8%増）となっている。技術料の増加の背景には、医薬分業の推進により、医科及び調剤報酬の双方へ技術料の加配をしたことにある。

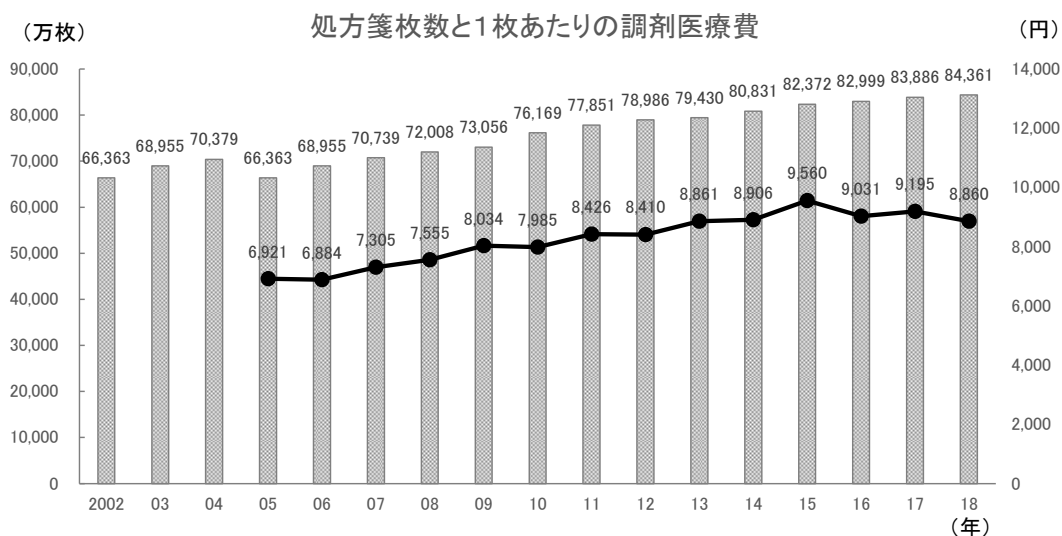


■ 内服薬の要素別動向

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
内服薬 処方箋1枚あたり薬剤料(円)	5,087	4,936	5,283	5,180	5,528	5,526	6,068	5,548	5,590	5,273
処方箋1枚あたり薬剤種類数	2.87	2.90	2.90	2.90	2.90	2.88	2.86	2.83	2.81	2.80
1種類あたり投薬日数(日)	19.7	19.9	20.5	21.1	21.8	22.3	22.8	23.1	23.6	24.1
1種類1日あたり薬剤料(円)	90	86	89	85	87	86	93	85	84	78

出典：厚生労働省「調剤医療費の動向」（2009年～2018年度）

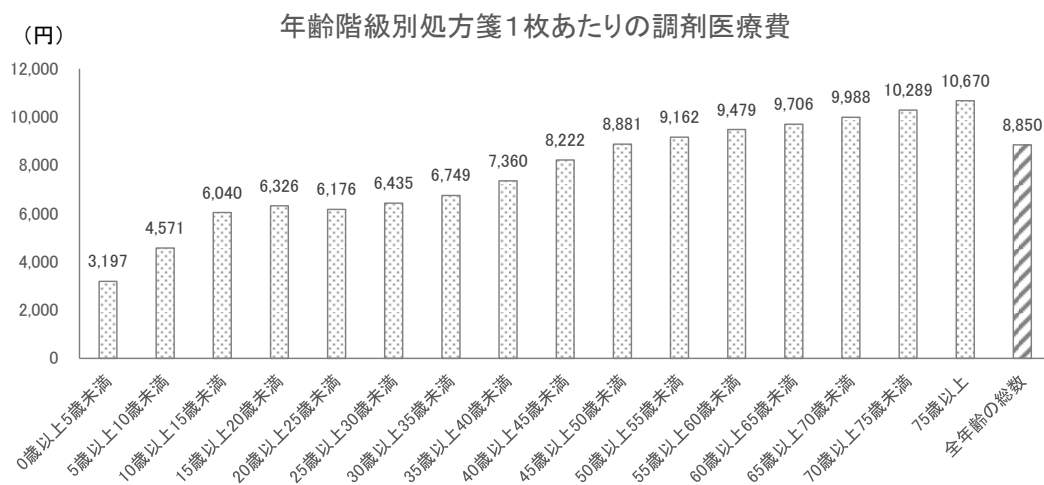
2018 年度の処方箋枚数は 84,361 万枚であり、2002 年と比較すると 17,998 万枚の増加（27.1%増）であった。処方箋 1 枚あたりの調剤医療費は 2018 年には 8,860 円であり、2005 年から 2015 年までは増加傾向であったが、2015 年をピークに近年は若干の低下傾向にある。



※ 処方箋 1 枚あたりの調剤医療費においては、2005 年からのデータを使用した。

出典：厚生労働省「調剤医療費の動向」（2002 年～2018 年度）

年齢階級別に処方箋 1 枚あたりの調剤医療費をみると、年齢階級が上がるにつれ、調剤医療費は上がる傾向にあり、最も低い 0 歳以上 5 歳未満と最も高い 75 歳以上を比較すると、7,473 円の差があることがわかる。全年齢の総数では、8,850 円となっている。



出典：厚生労働省「平成 30 年度 調剤医療費の動向」（2019 年 9 月 26 日）

(3) 医療費の地域差分析

ア 医療費全体

2018 年と 2011 年とを比較し、都道府県ごとの医療費全体の増減率をみると、最も高いのは千葉県 (20.3%)、次いで埼玉県 (19.1%)、神奈川県 (18.0%) であった。

一方、増減率の低い都道府県は、低い順に秋田県 (1.6%)、新潟県 (4.4%)、青森県 (5.0%) となっている。

少子高齢化が進んでいる地域の医療費の増加率は低くなる傾向があった一方で、人口流入が進行する首都圏地域においては高い傾向がみられた。

(単位：億円、カッコは2011年と比較した増減率)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
全 国	377,666	384,074	392,556	399,556	414,627	412,865	422,316	425,713 (12.7%)
01 北 海 道	19,661	19,784	20,271	20,388	20,957	20,706	21,149	21,220 (7.9%)
02 青 森	4,214	4,189	4,267	4,272	4,433	4,379	4,426	4,424 (5.0%)
03 岩 手	3,836	3,902	3,972	3,988	4,067	4,007	4,057	4,049 (5.6%)
04 宮 城	6,541	6,824	6,790	6,894	7,164	7,159	7,331	7,371 (12.7%)
05 秋 田	3,537	3,528	3,607	3,601	3,675	3,603	3,617	3,595 (1.6%)
06 山 形	3,529	3,558	3,610	3,638	3,760	3,697	3,766	3,769 (6.8%)
07 福 島	5,713	5,860	5,899	5,955	6,100	5,984	6,056	6,052 (5.9%)
08 茨 城	7,541	7,632	7,812	7,987	8,306	8,301	8,482	8,503 (12.8%)
09 栃 木	5,498	5,617	5,731	5,825	6,036	6,015	6,137	6,160 (12.0%)
10 群 馬	5,739	5,839	5,922	6,036	6,290	6,252	6,353	6,379 (11.2%)
11 埼 玉	16,604	16,982	17,468	17,930	18,768	18,887	19,524	19,774 (19.1%)
12 千 葉	14,978	15,374	15,853	16,349	17,173	17,290	17,782	18,021 (20.3%)
13 東 京	38,983	40,059	41,107	41,990	43,891	44,039	45,274	45,869 (17.7%)
14 神 奈 川	22,582	23,202	23,810	24,385	25,433	25,457	26,231	26,652 (18.0%)
15 新 潟	6,703	6,702	6,782	6,825	6,986	6,915	7,000	6,995 (4.4%)
16 富 山	3,214	3,248	3,310	3,351	3,474	3,445	3,517	3,553 (10.5%)
17 石 川	3,747	3,784	3,825	3,848	3,992	3,960	4,010	4,034 (7.6%)
18 福 井	2,423	2,442	2,470	2,498	2,570	2,557	2,595	2,620 (8.1%)
19 山 梨	2,415	2,436	2,468	2,516	2,606	2,574	2,619	2,611 (8.1%)
20 長 野	6,035	6,119	6,243	6,394	6,594	6,558	6,653	6,723 (11.4%)
21 岐 阜	5,764	5,828	5,966	6,028	6,290	6,205	6,318	6,330 (9.8%)
22 静 岡	10,103	10,285	10,519	10,754	11,150	11,118	11,373	11,434 (13.2%)
23 愛 知	19,823	20,290	20,811	21,307	22,214	22,232	22,848	23,195 (17.0%)
24 三 重	4,971	5,028	5,146	5,223	5,416	5,377	5,509	5,557 (11.8%)
25 滋 賀	3,630	3,700	3,796	3,890	4,016	4,021	4,123	4,149 (14.3%)
26 京 都	8,013	8,138	8,378	8,527	8,854	8,799	9,028	9,113 (13.7%)
27 大 阪	28,748	29,229	30,006	30,590	31,848	31,824	32,654	32,961 (14.7%)
28 兵 庫	16,493	16,793	17,217	17,646	18,343	18,421	18,928	19,177 (16.3%)
29 奈 良	3,994	4,057	4,139	4,220	4,406	4,383	4,527	4,587 (14.8%)
30 和 歌 山	3,285	3,306	3,334	3,375	3,507	3,476	3,524	3,517 (7.1%)
31 鳥 取	1,927	1,957	1,994	2,014	2,078	2,059	2,073	2,092 (8.6%)
32 島 根	2,317	2,331	2,363	2,405	2,487	2,455	2,482	2,479 (7.0%)
33 岡 山	6,419	6,497	6,639	6,714	6,934	6,865	7,004	7,010 (9.2%)
34 広 島	9,669	9,784	9,907	10,063	10,380	10,178	10,333	10,337 (6.9%)
35 山 口	5,036	5,107	5,186	5,251	5,395	5,316	5,380	5,369 (6.6%)
36 徳 島	2,771	2,805	2,852	2,872	2,958	2,947	2,998	3,002 (8.3%)
37 香 川	3,363	3,403	3,461	3,510	3,634	3,555	3,637	3,643 (8.3%)
38 愛 媛	4,714	4,750	4,800	4,877	5,059	4,992	5,055	5,068 (7.5%)
39 高 知	2,951	2,975	3,018	3,056	3,176	3,113	3,160	3,157 (7.0%)
40 福 岡	17,897	18,132	18,535	18,785	19,413	19,292	19,672	19,872 (11.0%)
41 佐 賀	2,869	2,921	2,975	3,033	3,129	3,116	3,155	3,174 (10.6%)
42 長 崎	5,114	5,158	5,235	5,291	5,434	5,374	5,441	5,428 (6.1%)
43 熊 本	6,317	6,372	6,518	6,639	6,829	6,727	6,896	6,904 (9.3%)
44 大 分	4,225	4,251	4,321	4,373	4,517	4,463	4,540	4,568 (8.1%)
45 宮 崎	3,732	3,757	3,834	3,860	3,981	3,914	3,970	3,967 (6.3%)
46 鹿 児 島	6,034	6,044	6,155	6,251	6,426	6,357	6,478	6,543 (8.4%)
47 沖 縄	3,994	4,094	4,237	4,331	4,476	4,498	4,634	4,706 (17.8%)

出典：厚生労働省「医療費の動向」(2011 年～2018 年度)

イ 調剤医療費

次に、2018年と2011年とを比較し、都道府県ごとの調剤医療費の増減率をみると、最も高いのは和歌山県（33.2%）、次いで福井県（28.2%）、愛媛県（25.2%）であった。

一方、増減率の低い都道府県は、低い順に秋田県（-3.6%）、新潟県（0.2%）、福島県（4.9%）となっている。

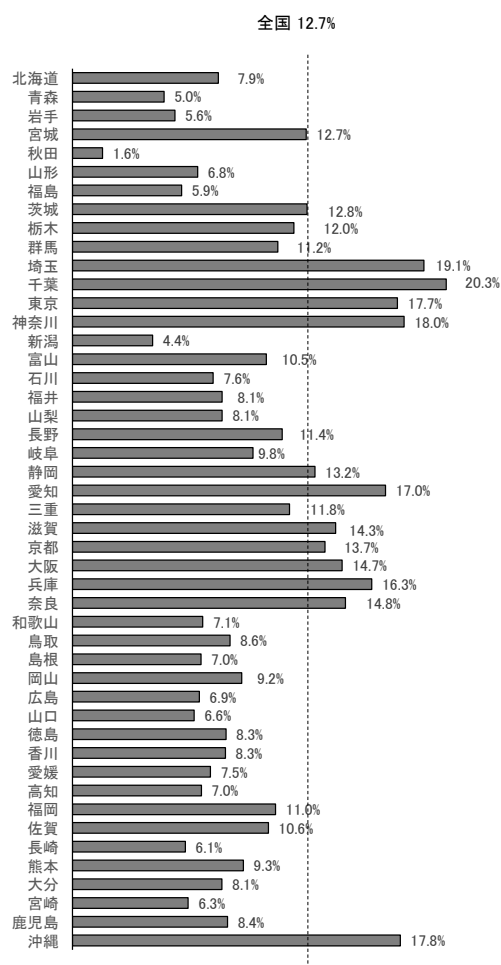
秋田県、新潟県、福島県においては、医療費全体、調剤医療費の増減率ともに低い結果となっている。

（単位：億円、カッコは2011年と比較した増減率）

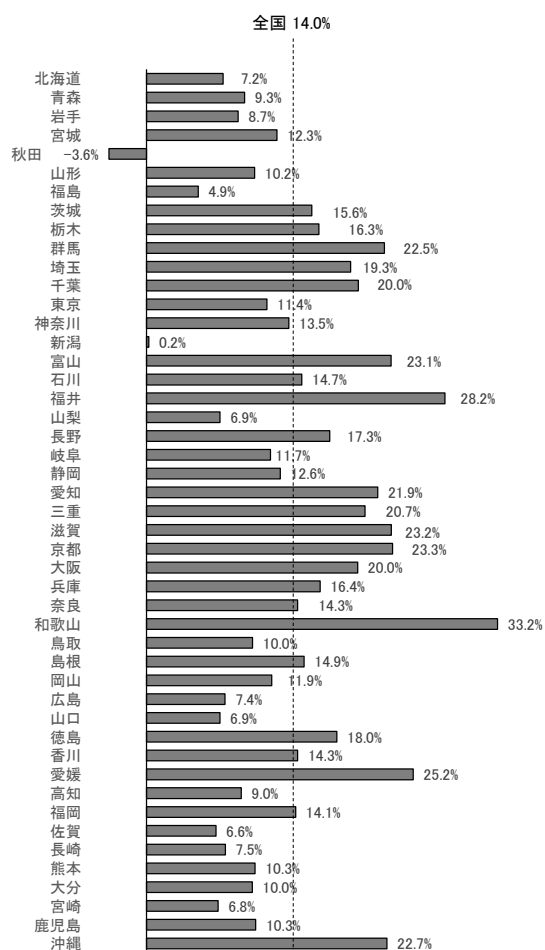
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
全 国	65,133	65,902	69,933	71,515	78,192	74,395	76,664	74,279 (14.0%)
01 北 海 道	3,445	3,448	3,666	3,691	3,957	3,745	3,837	3,695 (7.2%)
02 青 森	856	852	909	921	1,001	953	971	935 (9.3%)
03 岩 手	765	781	826	834	879	829	861	832 (8.7%)
04 宮 城	1,280	1,347	1,392	1,420	1,529	1,445	1,491	1,438 (12.3%)
05 秋 田	814	792	831	833	880	820	828	785 (-3.6%)
06 山 形	631	638	676	687	744	703	718	695 (10.2%)
07 福 島	1,125	1,164	1,212	1,217	1,301	1,221	1,242	1,180 (4.9%)
08 茨 城	1,469	1,485	1,567	1,621	1,820	1,728	1,768	1,699 (15.6%)
09 栃 木	868	880	939	962	1,063	1,010	1,052	1,009 (16.3%)
10 群 馬	798	827	891	923	1,037	982	1,014	978 (22.5%)
11 埼 玉	3,215	3,274	3,478	3,563	3,919	3,795	3,957	3,836 (19.3%)
12 千 葉	2,841	2,911	3,091	3,182	3,535	3,411	3,517	3,410 (20.0%)
13 東 京	7,787	7,840	8,221	8,370	9,026	8,672	8,947	8,674 (11.4%)
14 神 奈 川	4,777	4,821	5,073	5,178	5,664	5,404	5,581	5,420 (13.5%)
15 新 潟	1,337	1,322	1,389	1,394	1,455	1,367	1,391	1,340 (0.2%)
16 富 山	432	443	477	505	569	538	551	532 (23.1%)
17 石 川	553	560	599	615	671	636	650	634 (14.7%)
18 福 井	275	283	313	338	370	353	363	352 (28.2%)
19 山 梨	468	474	501	507	547	517	529	501 (6.9%)
20 長 野	1,059	1,072	1,147	1,182	1,318	1,241	1,278	1,243 (17.3%)
21 岐 阜	996	1,006	1,074	1,091	1,176	1,105	1,143	1,113 (11.7%)
22 静 岡	1,844	1,895	2,014	2,053	2,194	2,091	2,147	2,077 (12.6%)
23 愛 知	3,119	3,186	3,419	3,538	3,858	3,730	3,881	3,802 (21.9%)
24 三 重	779	790	853	888	981	928	963	940 (20.7%)
25 滋 賀	610	628	688	703	777	741	775	751 (23.2%)
26 京 都	1,144	1,165	1,259	1,304	1,471	1,387	1,436	1,411 (23.3%)
27 大 阪	4,316	4,377	4,687	4,858	5,336	5,114	5,298	5,178 (20.0%)
28 兵 庫	2,855	2,891	3,098	3,158	3,467	3,320	3,419	3,324 (16.4%)
29 奈 良	545	547	587	597	651	618	643	622 (14.3%)
30 和 歌 山	393	400	424	454	553	509	534	523 (33.2%)
31 鳥 取	314	317	333	336	379	356	359	346 (10.0%)
32 島 根	398	405	430	439	479	452	468	458 (14.9%)
33 岡 山	862	877	929	938	1,048	983	1,009	964 (11.9%)
34 広 島	1,663	1,671	1,750	1,789	1,968	1,814	1,857	1,786 (7.4%)
35 山 口	847	845	899	918	996	934	940	906 (6.9%)
36 徳 島	346	353	377	389	434	411	423	409 (18.0%)
37 香 川	550	552	584	600	678	632	655	629 (14.3%)
38 愛 媛	610	618	647	666	783	739	772	764 (25.2%)
39 高 知	446	447	479	483	519	495	506	486 (9.0%)
40 福 岡	2,699	2,691	2,859	2,950	3,226	3,076	3,163	3,080 (14.1%)
41 佐 賀	508	508	534	542	615	567	566	541 (6.6%)
42 長 崎	841	839	888	901	968	916	938	904 (7.5%)
43 熊 本	901	903	963	982	1,082	1,019	1,044	993 (10.3%)
44 大 分	673	674	711	724	813	754	765	740 (10.0%)
45 宮 崎	627	627	667	668	734	684	695	670 (6.8%)
46 鹿 児 島	863	873	930	937	1,008	951	979	952 (10.3%)
47 沖 縄	590	602	648	664	713	700	740	724 (22.7%)

出典：厚生労働省「調剤医療費の動向」（2011年～2018年度）

医療費全体の増減率(都道府県別)



調剤医療費の増減率(都道府県別)

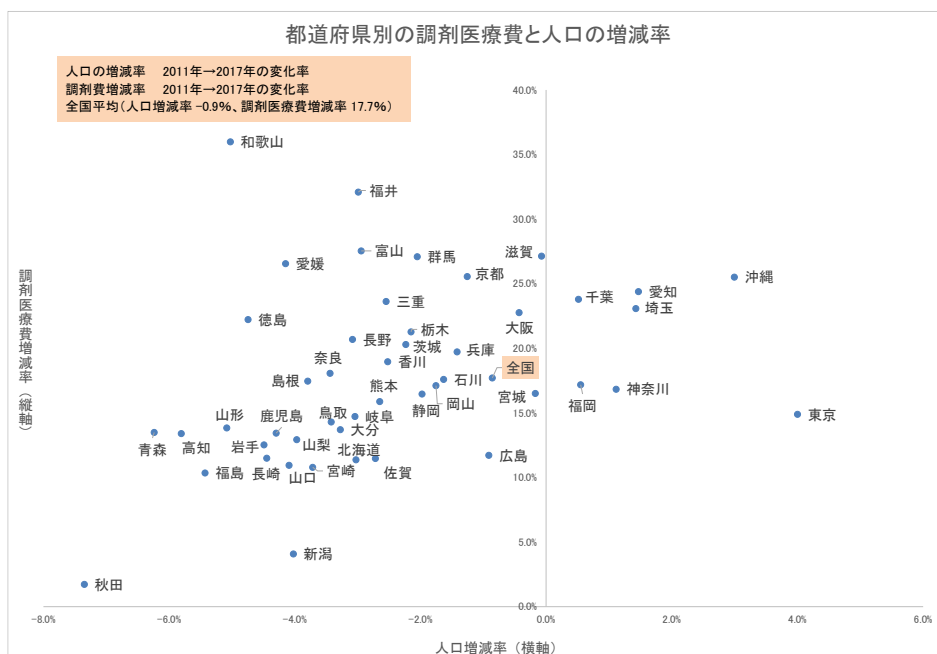
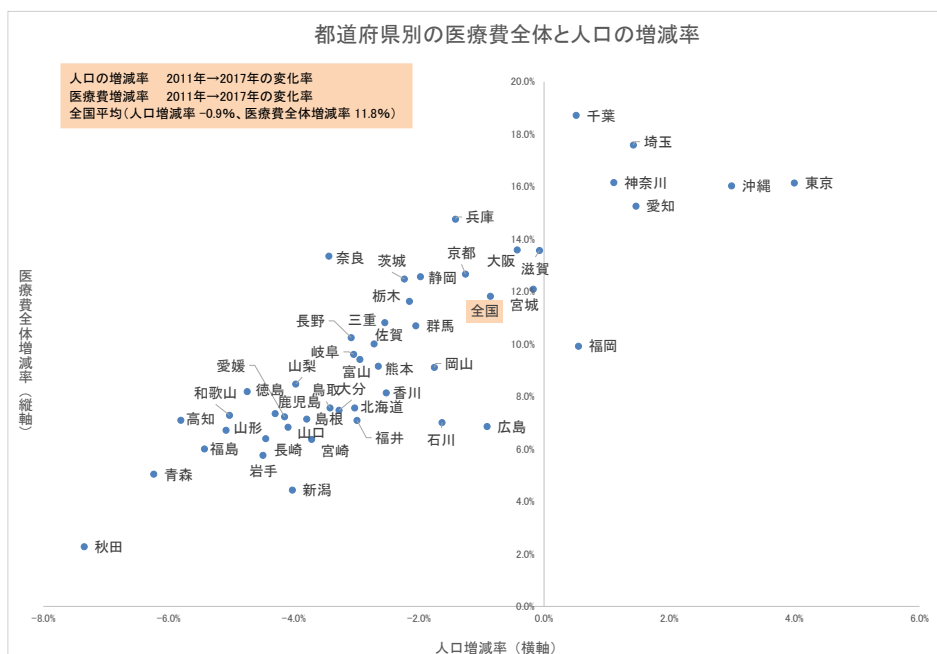


出典：厚生労働省「医療費の動向」、「調剤医療費の動向」（2011年、2018年度）

都道府県別の医療費と人口の増減率をみると、人口が増加している地域では医療費の増加もみられ、概ね相関関係が傾向として存在している。人口と医療費の増加がみられる県には、東京都、神奈川県、千葉県、首都圏のほか、沖縄県などもあった。

また、調剤医療費と人口の増減率をみると、人口が減少している地域でも調剤医療費が大幅に増加しており、医療費の傾向とは大きな違いがみられる。

なお、医療費全体の増減率のプロット図と比較すると、調剤医療費の増加率が高い都道府県が人口の増減と必ずしもリンクしていないことがみてとれる。



出典：厚生労働省「医療費の動向」、「調剤医療費の動向」（2011年、2017年度）、総務省「人口推計」（2011年、2017年）

【参考文献】

- ・厚生労働省「医療費の動向」（2002 年～2018 年度）
- ・厚生労働省「調剤医療費の動向」（2002 年～2018 年度）
- ・総務省「人口推計」（2011 年、2017 年）

株式会社日本政策投資銀行（DBJ）のご案内

株式会社日本政策投資銀行は、1999年10月1日に日本開発銀行と北海道東北開発公庫の一切の権利・義務を承継して設立され、2007年6月に成立した株式会社日本政策投資銀行法に基づき、2008年10月1日に民営化（株式会社化）しました。

代表取締役社長	渡辺 一
職員数	1,186名（2019年3月末）
資本金	1兆4億2,400万円（全額政府出資）
本店所在地	〒100-8178 東京都千代田区大手町一丁目9番6号 大手町フィナンシャルシティサウスタワー
URL	https://www.dbj.jp/
支店・事務所	支店10か所、事務所8か所、海外現地法人4か所
総資産	16兆8,273億円（2019年3月末）
貸出金	13兆631億円（2019年3月末）

《DBJの企業理念》

DBJは「金融力で未来をデザインします」を企業理念として掲げています。これは、創造的金融活動による課題解決でお客様の信頼を築き、豊かな未来をともに実現していきます、という決意を表明したものです。

DBJでは、①長期的な視点と行動、②中立性の維持、③パブリックマインド、④信頼される組織、の4つを共有する価値観、DNAと位置づけており、これらを活かして参ります。



《DBJのサービスのご案内》

中長期の資金供給をはじめとする投融資一体型の金融サービスの提供を通じて、お客様の課題解決に取り組みます。

■ 融資

- 中長期の融資
- 独自の高付加価値の金融サービスを提供（環境・社会的責任投資、防災・安全対策、技術の事業化等の評価付き金融など）
- さまざまなニーズに対応するためノンリコースローン、担保・仕組みを工夫したファイナンス（DIP、在庫担保、知的財産権担保など）を開発・提供

■ 投資

- 事業再生・再編、成長戦略、国際競争力強化、インフラ事業向けにメザニン・ファイナンス、エクイティなどのリスクマネーを提供

■ コンサルティング／アドバイザー

- M&Aアドバイザーサービス
- 産業調査力と新金融技術開発力を活用した提案
- 仕組み金融などのファイナンスのアレンジメント

《ヘルスケア室のご案内》

DBJ及び株式会社日本経済研究所は、医療・福祉分野、ライフサイエンス分野それぞれにおきましても、各種融資対応、コンサルティング業務及び「ヘルスケア業界ハンドブック」の発刊などによる情報提供等の取組みを通して、当該分野での付加価値提供を目指してまいりました。このような取組みを推進する観点から、2013年4月1日付で「医療・生活室」を改組し、「ヘルスケア室」を設立しました。

今後とも長期資金や年度資金のご融資などを通じて、お客様のニーズにあわせた解決策をご提案し、資金調達及び経営改善のお手伝いをさせていただきます。

《DBJの医療・福祉分野におけるサービスのご案内》

■ 融資

- 病院建替・増改築時に必要となる、長期の資金調達の支援
- 医療機器の取得・更新時の支援
- 介護事業進出時の資金調達の支援
- 経営承継（M&A）資金の資金調達の支援
（各種公的医療施設等の民間承継に対する支援も含む）
- DBJビジョナリーホスピタル認定制度

公益財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価」の認定を受けた病院を対象に、環境配慮、防災・事業継続対策に優れた病院をDBJ独自の評価システムによって「DBJビジョナリーホスピタル」と認定し、評価に応じた融資条件を設定する融資メニュー

- DBJ健康経営（ヘルスケアマネジメント）格付
従業員の健康配慮への取組みが優れた企業を独自の評価システムにより評価・選定し、その評価に応じた融資条件を設定する融資メニュー

■ M&Aアドバイザー

- 内外拠点/人的ネットワークに加え、全国の地域金融機関と提携
- 各種業界に関する豊富な知識と経験、公共性の高い案件へのノウハウ

■ ヘルスケアファンド

医療・介護事業者を対象にしたヘルスケアファンドを設立し、以下のような業務を行っております。

- ・ 医療機関等に対する劣後ローンの供給
- ・ 医療機関等に対し、金融機関が保有する貸出債権の買い取り
- ・ 医療・介護施設の不動産流動化

■ コンサルティング

DBJ及びグループ会社の㈱日本経済研究所による、中立的・公益的・長期的な視点からの医療事業向けコンサルティング業務

①財務、②経営、③資産活用 の3点から、各種提案及び実行支援

■ レポート等の発信

- 「ヘルスケア業界ハンドブック」の作成
- 「ヘルスケアレポート」の作成（当行ウェブサイト）

《DBJのライフサイエンス分野におけるサービスのご案内》

■ 融資

- 工場の建設・建替時に必要となる長期の資金調達の支援
- 設備の取得・更新時の支援
- M&A、一部株式取得等におけるバックファイナンスの支援
- 更なる成長のためのハイブリッドファイナンス、劣後融資などのリスクマネー提供
- DBJ評価認証型（健康経営格付、BCM格付、環境格付）
企業の非財務情報を評価して融資条件に反映するメニューで、それぞれ、従業員に関する健康経営、事業継続及び危機管理の経営（BCM）、環境経営を評価

■ 投資（共同投資等）

- 成長加速、資本増強のための優先株式取得又は普通株式取得を通じた支援
- 新規事業獲得、販路獲得、生産拠点の獲得を目的にした中規模以上のM&A時における買収対象会社への共同投資
- ノンコア事業切り出し、新規事業ジョイントベンチャー設立時の共同投資支援など

■ M&Aアドバイザー

- ㈱日本経済研究所とも連携しながら、業界に関する豊富な知識と経験、ノウハウを提供
- 内外拠点/人的ネットワークに加え、海外のM&Aアドバイザーファームと提携

■ ベンチャー企業支援

グループ会社のDBJキャピタル㈱を通じたベンチャー企業投資

■ レポート等の発信

- 「ヘルスケアレポート」の作成（当行ウェブサイト）

■ 株式会社日本政策投資銀行 本支店一覧（国内）

本店 東京

〒100-8178 東京都千代田区大手町 1 丁目 9 番 6 号（大手町フィナンシャルシティサウスタワー）
03-3270-3211（大代表）

北海道支店 札幌

〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 4 丁目 1 番地（日本生命札幌ビル）
011-241-4111（代表）

東北支店 仙台

〒980-0021 仙台市青葉区中央一丁目 6 番 35 号（東京建物仙台ビル）
022-227-8181（代表）

新潟支店 新潟

〒951-8066 新潟市中央区東堀前通六番町 1058 番地 1（中央ビルディング）
025-229-0711（代表）

北陸支店 金沢

〒920-0031 金沢市広岡三丁目 1 番 1 号（金沢パークビルディング）
076-221-3211（代表）

東海支店 名古屋

〒450-6420 名古屋市中村区名駅 3 丁目 28 番 12 号（大名古屋ビルヂング）
052-589-6891（代表）

関西支店 大阪

〒541-0042 大阪市中央区今橋 4 丁目 1 番 1 号（淀屋橋三井ビルディング）
06-4706-6411（代表）

中国支店 広島

〒730-0036 広島市中区袋町 5 番 25 号（広島袋町ビルディング）
082-247-4311（代表）

四国支店 高松

〒760-0050 高松市亀井町 5 番地の 1（百十四ビル）
087-861-6677（代表）

九州支店 福岡

〒810-0001 福岡市中央区天神 2 丁目 12 番 1 号（天神ビル）
092-741-7734（代表）

南九州支店 鹿児島

〒892-0842 鹿児島市東千石町 1 番 38 号（鹿児島商工会議所ビル）
099-226-2666（代表）

函館事務所 函館

〒040-0063 函館市若松町 14 番 10 号（函館ツインタワー）
0138-26-4511（代表）

釧路事務所 釧路

〒085-0847 釧路市大町1丁目1番1号（道東経済センタービル）
0154-42-3789（代表）

青森事務所 青森

〒030-0861 青森市長島2丁目10番3号（青森フコク生命ビル）
017-773-0911（代表）

富山事務所 富山

〒930-0005 富山市新桜町6番24号（C O I 富山新桜町ビル）
076-442-4711（代表）

松江事務所 松江

〒690-0887 松江市殿町111番地（松江センチュリービル）
0852-31-3211（代表）

岡山事務所 岡山

〒700-0821 岡山市北区中山下1丁目8番45号（N T T クレド岡山ビル）
086-227-4311（代表）

松山事務所 松山

〒790-0003 松山市三番町7丁目1番21号（ジブラルタ生命松山ビル）
089-921-8211（代表）

大分事務所 大分

〒870-0021 大分市府内町3丁目4番20号（大分恒和ビル）
097-535-1411（代表）

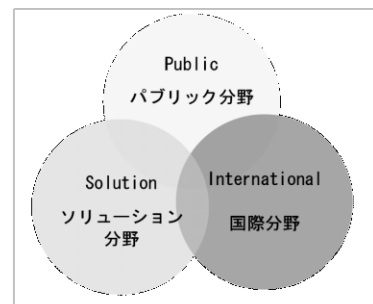
株式会社日本経済研究所（J E R I）のご案内

株式会社日本経済研究所は、わが国経済社会の望ましい発展のため、知恵・情報・解決策を広く発信し続け、公平・中立な立場から長期的な視点に立ち、公共セクターや民間企業に対する調査・コンサルティングを行う株式会社 日本政策投資銀行の関連シンクタンクです。2009年4月、財団法人日本経済研究所の受託調査及び関連事業を受け継ぎ、財団法人日本経済研究所が築いてきた伝統と実績を更に発展させていく所存です。

設立	1989年12月
代表取締役社長	高橋 洋
職員数	139名（2019年4月1日現在）
資本金	480百万円
所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目9番2号 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 15階
URL	https://www.jeri.co.jp/
連絡先	公共デザイン本部 【パブリック分野（医療・福祉チームを含む。）】 TEL:03-6214-4613 E-mail:public-design@jeri.co.jp 国際本部 【国際分野】 TEL:03-6214-4630 E-mail:kokusai@jeri.co.jp ソリューション本部 【ソリューション分野】 TEL:03-6214-4640 E-mail:solution@jeri.co.jp

《J E R I の調査・コンサルティング分野》

3つの調査分野のシナジー効果を活かし、総合的な観点からお客様のニーズにあったコンサルティングを実施します。



- パブリック分野 —— 国や地方自治体に対する様々な提言や構想、計画、政策、施策の立案等に係る調査・コンサルティングを行います。
- ソリューション分野 — 民間企業等に対する企業価値向上、事業評価、新たなビジネス展開等に係わる調査・コンサルティングを行います。
- 国際分野 ———— 民間企業の海外事業展開等のクロスボーダーやODA関連業務に関わる調査・コンサルティングを行います。

◆ パブリック分野 ◆ 地域と共に地域の課題を解決！

P F I

導入可能性調査、アドバイザー、ガイドライン策定、モニタリング

P P P・民営化

事業手法検討、業務アドバイザー、事業価値評価、ファイナンシャル・アドバイザー
経済、産業

産業政策、景気調査、基本構想・基本計画、経済波及効果調査

地域開発、まちづくり

中心市街地活性化、地域振興政策

環境・エネルギー

温室ガス対策、環境配慮、省エネルギー

病院事業

病院経営アドバイザー、病院事業手法検討

◆ ソリューション分野 ◆ 金融から防災まで総合力で対応！

経営マネジメント

財務分析、事業戦略策定、事業再生

事業価値評価、プロジェクトフィージビリティスタディ

新規事業F S、事業価値試算

公共サービスサポートビジネス（P F I、指定管理者、市場化テスト等）

業務アドバイザー、提案書作成支援

B C P、リスクマネジメント

B C P計画策定、B C P研修策定、防災関連

金融、事業手法

証券化、プロジェクトファイナンス

不動産開発

資産活用、開発計画策定

◆ 国際分野 ◆ 欧米のほか、アジア・メコン地域での豊富な経験を活用！

海外進出支援、海外投資環境調査

海外市場調査

ODA関連（産業政策、金融政策、中小企業振興、事業評価等）

人材育成・研修

《J E R Iの医療・病院コンサルティングサービスのご案内》

株式会社 日本経済研究所では、我が国の経済社会が直面する地域医療や病院経営など「医療」をめぐる諸課題について、豊富な経験やネットワークをフル活用し、広範な視点から自治体立病院、民間病院など様々なお客様のニーズにあったコンサルティングを行っています。

■ JERIの医療・病院コンサルティングサービスの特色

特色 1：豊富な経験に基づく「3つの力」の結合

60 年以上に及ぶシンクタンク業務で培った豊富な経験に基づく弊研究所ならではの「3つの力」—すなわち、①俯瞰力（時代潮流や国・地域社会の動向を把握）、②現場力（医療現場の課題等に精通）、③事業力（病院経営や事業計画を的確に分析、誘導）を結合し、総合的かつ的確な医療コンサルティングサービスをご提供いたします。

特色 2：中立的・公益的・長期的視点に立った信頼ある取組み

常に中立的・公益的かつ長期的な視点に立った業務への取組みは、地方自治体をはじめ多くの皆様から高いご評価を頂いております。地域社会にも貢献できるシンクタンクとして、信頼性のある医療コンサルティングサービスをご提供いたします。

特色 3：高度な知見を有するネットワークの活用

これまでの業務経験で培った弊研究所オリジナルのネットワークの中から、医療・システム・施設・制度・人材・会計・法務等医療関連の各分野に高度な知見を有する有識者、コンサルタント等を結集することにより、広範多岐にわたって的確な医療コンサルティングサービスをご提供いたします。

■ JERIの医療・病院コンサルティングサービスの内容(重点分野)

● 公立病院

① 病院改革プラン策定などの経営コンサルティング業務

- ・病院改革プランの策定支援
- ・病院経営分析、病院経営診断
- ・財務内容健全化、経営効率化等に向けた経営コンサルティング 等

② 病院基本構想・基本計画づくりなどのプランニング業務

- ・病院の新設、再整備等に当たっての基本構想、基本計画づくり
- ・病院経営に関する中長期計画、将来構想、経営計画づくり 等

③ 民間活力導入等、「経営形態見直し」のためのアドバイザリー業務

- ・望ましい病院経営形態の検討（地方公営企業全部適用、地方独立行政法人化、指定管理者制度の導入、民間移譲等）
- ・P F I 導入可能性調査、P F I 導入アドバイザリー業務
- ・指定管理者制度導入アドバイザー、民間委譲アドバイザー業務 等

● 民間病院等

④ 経営分析、事業計画づくりなどの経営コンサルティング業務

- ・経営分析（財務分析、マーケティング調査、診療機能・運営状況調査等）
- ・経営ビジョン、経営計画（収支計画等）、事業計画等策定
- ・経営改善策のご提案（増収増益策、現場業務改善提案等）
- ・病院及び病院経営体の事業価値評価 等

● その他

⑤ 医療をめぐる諸課題等に関する調査研究業務

- ・医療政策・医療制度等に関する調査研究
- ・地域医療計画等のプランニング
- ・医療サービスに対するニーズ調査
- ・病院経営の一般的分析、課題と対応の検討 等

本書の取扱いについて

- 本ハンドブック自体の著作権（編集著作権）は弊行に帰属します。また、本ハンドブックに掲載しているデータ・図表等の著作権は、その出典元に帰属します。取扱いは、データ・図表等の著作権の帰属先によって次のとおり異なりますので、ご注意ください。
- 1 官公庁、独立行政法人に帰属するデータ・図表等の場合
基本的には、お客様の責任において自由にご使用ください。禁転載等の表記のあるものはそれに従ってください。
- 2 弊行以外の個別の企業・団体に帰属するデータ・図表等の場合
ご使用の際は、当該企業・団体に直接お問い合わせ願います。
- 3 弊行に帰属するデータ・図表等の場合
使用に際して、他媒体（ホームページ、雑誌、書籍、その他独自の資料等）への転載や編集加工等が発生する場合には弊行企業金融第6部 ヘルスケア室までお問い合わせください。
- データ等の内容の正確性には十分注意を払っておりますが、万一、本ハンドブック記載のデータ等を利用したことによって直接又は間接に不具合が生じた場合でも、弊行及び弊研究所はその責を負いかねます。

ヘルスケア業界ミニブックー患者構造の変化と医療費動向ー

2020年3月25日 初版発行

発行 株式会社 日本政策投資銀行
株式会社 日本経済研究所

＜お問合せ先＞

(株式会社 日本政策投資銀行)

〒100-8178 東京都千代田区大手町1-9-6
大手町フィナンシャルシティサウスタワー
株式会社 日本政策投資銀行 企業金融第6部 ヘルスケア室
TEL : 03-3244-1730
<https://www.dbj.jp>

(株式会社 日本経済研究所)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 15階
株式会社 日本経済研究所 調査本部 医療福祉部
TEL : 03-6214-4613
<https://www.jeri.co.jp>